

スーパーマルチ TFT メーター 取扱説明書

対応 DC12V バッテリー付き車



Here is english manual.

Can be view the pdf data of instruction English manual by scanning the TWO-DIMENSIONAL CODE.

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎製品には、エッジや突起がある場合があります。必ず作業手袋を着用し作業を行って下さい。
(説明書内で作業手袋未着用の写真がある場合でも、作業時は作業手袋等を着用して下さい。)
- ◎当製品はDC12V バッテリー付き車汎用品と記載してありますが、販売されているDC12V 全てに就いて対応するという事ではありません。
車種によってはメーターの機能を使う事が出来ない場合があります。
- ◎当製品をお手入れする際には、ガソリンやシンナー等を使用しないで下さい。ラバーや樹脂部品の劣化の恐れがあります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求めの販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎スピードメーターケーブルが正しく作動する位置にセパレートユニットを取付けて下さい。
- ◎プラグキャップ及びハイテンションコード、イグニッションコイルはノーマル、又は弊社製品をご使用下さい。
- ◎スパークプラグはレジスタータイプをご使用下さい。
- ◎外品バッテリーレスキット使用不可。必ず状態の良いバッテリーを使用して下さい。
- ◎弊社製品以外の点火系製品、発電系製品と組み合わせて使用しないで下さい。
- ◎社外品のH.I.D. キット、他社製LED ヘッドライトやフォグランプ類は、絶対に同時装着しないで下さい。
パラスト / インバーター (電圧変換装置) からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因となります。
- ◎追加メーター類との同時装着は出来ません。
- ◎タイヤ外径補正機能により、表示速度を増減補正する事が出来ますが、不適切な設定を行なえば速度超過により取り締まりを受ける原因ともなります。
公道でもお使いになる場合は、ご自身の責任に於いてご使用下さい。
- ◎製品プログラムは予告無く変更・改定される場合があります。
- 同一の商品番号であっても製造時期により、動作や画面が多少異なる可能性があります。予めご了承下さい。
- ◎本メーターのガソリン計を使用する場合、フューエルセンサーが空量状態でメーターの表示が空量になる事をご確認下さい。
設定間違い等により、実際はガス欠状態にもかかわらず、メーターが残量有りと表示してしまうと、ガス欠により車両停止の恐れがあります。
- ◎激しい衝撃を与えないで下さい。オフロード走行やジャンプ、ウイリーなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。
衝撃によっては内部部品の欠落、ボディーの損傷の恐れがあります。
- ◎当製品は完全防水ではありません。
防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸すなどすると水が浸入してしまいます。
万が一本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。
また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込みパネル内面に曇りが発生する可能性があります。
- ◎炎天下での放置にご注意下さい。長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけて下さい。
炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の恐れがあります。
[ヘッドライト OFF での走行禁止 / 保安部品を外したレース用車両]
ヘッドライト常時点灯車を安易な改造 (断線させるだけ) によりライト OFF 状態にして走行すると消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。
そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。
ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。
ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて (光軸も調整して) 下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。
レース用車両ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。
- ◎当製品は、DC12V 用の為 AC12V での電源では使用しないで下さい。(弊社製ミニレギュレーターと同時装着出来ません。)
- ◎車両により、スプロケット交換時、メーターの速度表示設定を変更しても、ABS 等のエラーコードを消す事は出来ません。
- ◎ヘッドライトをマイナス電圧のみで点灯している車両ではハイビームインジケーターは使用出来ません。
- ◎近年の車両は金属速度センサーから直接速度の出力し表示すると ABS エラーコードを検出してしまいます。

～特 徴～

- ◎速度、回転数、ギアポジション、温度計、燃料計、時刻、バッテリー電圧表示やタイヤ外径補正、パワーテスト機能等、非常に多くの機能を搭載したマルチメーターです。視認性に優れた指針式タコメーターと TFT 液晶によるデジタル表示を採用。
メーター本体に小型セパレートユニット (JIS ケーブル式速度センサー用)、H1 ステータスが付属。
- ◎H1 ステータスはお客様で取り付け場所、固定方法を考え使用して頂く汎用ステーです。
- ◎メーター操作や機能設定は、すべて付属の外部スイッチで行えます。

注意 ギアポジションの設定に関する注意事項

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。
その為、“シャーンダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。
弊社では、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。
“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険な為、ギア表示の学習は行わないで下さい。
“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時 (エンジン及びマフラーが冷えている時) に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、作業手袋等を着用し手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いことを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。(部品の脱落の原因となります。)

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

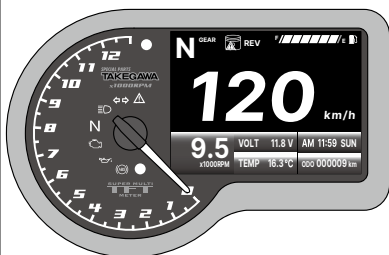
警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）
- 走行中はスイッチ操作を行わないで下さい。（事故につながる恐れがあります。）

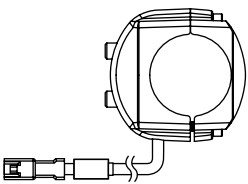
- ◎ 性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎ クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させていただきます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
- なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎ この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

キット内容

①メーター本体



②メーター外部スイッチ



③ラバーストリップ



■スーパーマルチ TFT メーター構成部品

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	—	—
2	メーター外部スイッチ（本体）	1	00-05-0380	1
3	ラバーストリップ	1		1

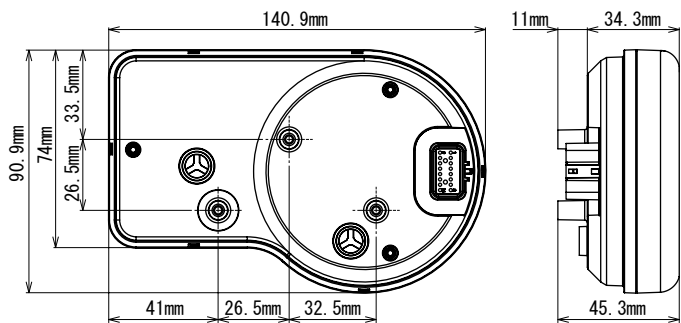
※リペアパーツは必ずリペア品番にてご注文下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいます様お願い致します。

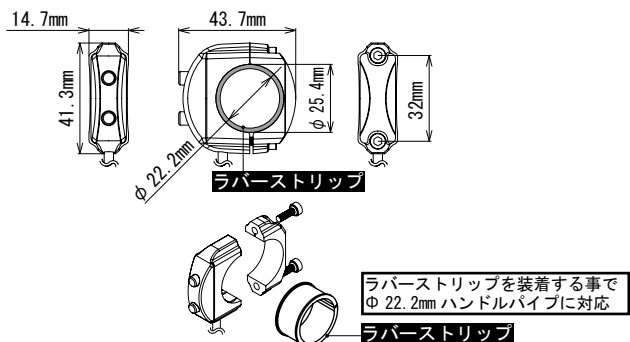
※リペアパーツはキット内容と若干、形状等異なる場合があります。使用につきましては問題ございません。予めご了承下さい。

メーター本体とメーター外部スイッチの寸法図

メーター本体寸法図



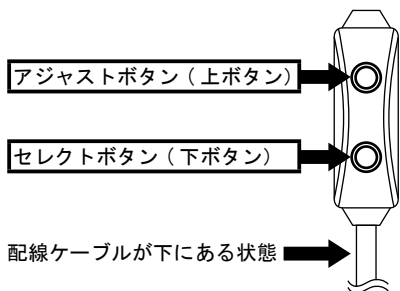
メーター外部スイッチ寸法図



メーター外部スイッチ詳細

メーター外部スイッチは、下イラストの様に配線ケーブルが下にある状態で取り付けて下さい。

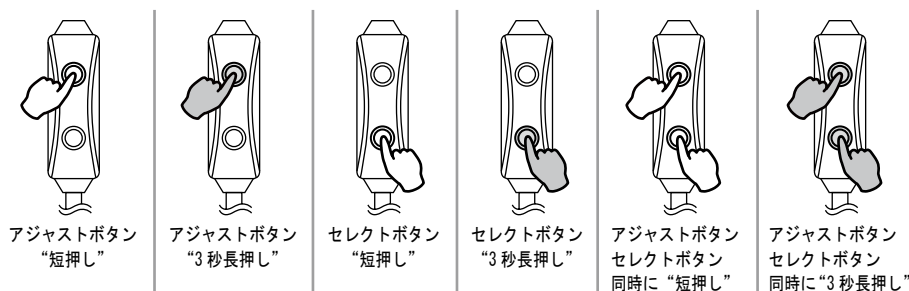
下イラストを取り付け状態とし、上ボタンを“アジャストボタン”、下ボタンを“セレクトボタン”とします。



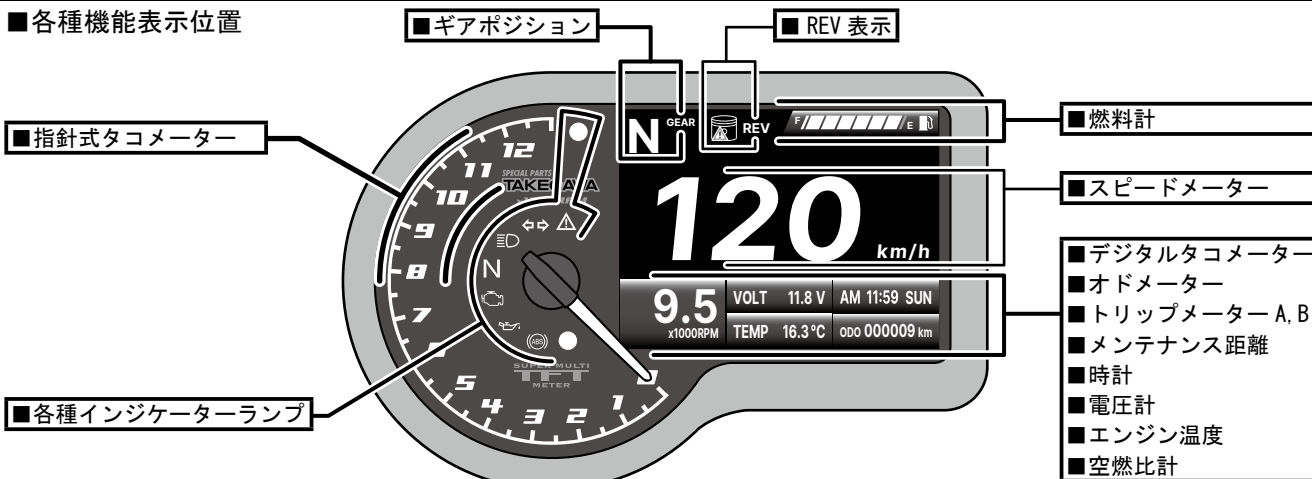
メーター外部スイッチの操作方法

メーター外部スイッチの操作は、アジャストボタン（上ボタン）“短押し”“3秒長押し”、セレクトボタン（下ボタン）“短押し”“3秒長押し”、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”の各種押し方により、機能設定や表示切り替えを行います。

下記ボタンの押し方（説明書表示方法）をご確認下さい。



■各種機能表示位置



■各種機能一覧 設定方法見出し番号

スピードメーター	表示範囲: 0 ~ 360km/h	
120 km/h	タイヤ外周設定	設定単位: 1mm 設定範囲: 300 ~ 2500mm 設定→見出し番号⑫
	速度警告灯	設定範囲: 30 ~ 360km/h 設定単位: 1km/h 設定→見出し番号④
	最高速度記録	表示範囲: 0 ~ 360km/h 表示単位: 1km/h

タコメーター	指針表示: 0 ~ 13000rpm デジタル表示: 0 ~ 20000rpm	
9.5 x1000RPM	回転数警告灯	指針設定範囲: 1000 ~ 13000rpm デジタル設定範囲: 1000 ~ 20000rpm 設定単位: 100rpm 設定→見出し番号⑤
	最高回転数記録	表示範囲: 0 ~ 20000rpm
	点火設定	設定範囲: 0.5・1 ~ 24 : Hi Act・Lo Act 設定→見出し番号⑭

ODO 000009 km	オドメーター	表示範囲: 0 ~ 999999km 表示単位: 1km (範囲を超えると0に戻ります) トータル走行距離・ユーザーオド設定機能	設定→見出し番号⑮
TRIP A 9999.9 km TRIP B 9999.9 km	トリップメーター A, B	表示範囲: 0 ~ 9999.9km 表示単位: 0.1km (範囲を超えると0に戻ります)	設定→P6/29

TRIP C 9999.9 km	オイル交換時期警告	設定範囲: 500 ~ 16000km 設定単位: 100km	設定→見出し番号⑨
		メンテナンス距離 (通知モード)	

N GEAR	ギアポジション	全ギア表示、OFF 自動学習モードによるギア数登録機能	設定→見出し番号⑬
--------	---------	--------------------------------	-----------

F / / / / / E	燃料計	表示範囲: 6段階 フューエルセンサー抵抗値プリセット : 100 Ω・250 Ω・270 Ω・390 Ω・510 Ω・1200 Ω ユーザー抵抗値設定 抵抗値範囲: 0 ~ 1500 Ω 燃料警告灯	設定→見出し番号⑮ 設定→見出し番号⑧
---------------	-----	--	------------------------

バックライト Day/Night AUTO 機能	輝度 Day mode 設定範囲: 1/5 (暗い) ~ 5/5 (明るい) Night mode 設定範囲: 1/5 (暗い) ~ 5/5 (明るい) 色 設定範囲: 白、赤、橙、緑、青、黄	設定→見出し番号③
-----------------------------	--	-----------

VOLT 11.8 V	電圧計	表示範囲: 8 ~ 18V 電圧警告灯	設定範囲: 8 ~ 18V 設定単位: 0.1V 設定→見出し番号⑦
-------------	-----	------------------------	------------------------------------

TEMP 16.3°C	温度計	表示範囲: 0 ~ 250°C 別途弊社製ドレンボルトをご購入頂く事で ドレンボルト部での温度計測が可能 温度警告灯	設定範囲: 60 ~ 250°C 設定→見出し番号⑥
		最高温度記録	表示範囲: 0 ~ 250°C

AM 11:59 SUN	時計 / 曜日	表示方法 : 12/24 時間	設定→見出し番号①
--------------	---------	--------------------	-----------

A/F 12.1	空燃比計	表示範囲 : 12.1 ~ 17.5	設定→見出し番号①
----------	------	-----------------------	-----------

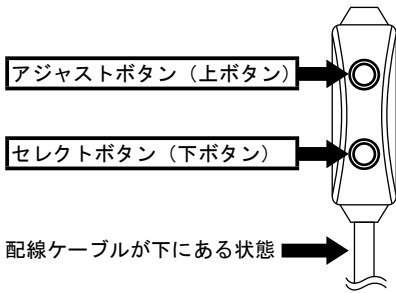
Target Speed	目標速度記録 (レコード表示)
Target Distance	目標距離記録 (レコード表示)
Top Speed	最高速度記録 (レコード表示)

メーター本体のサイズ	140.9mm X 90.9mm X 45.3mm
メーター本体の重量	188g
動作電圧	DC12V
使用温度範囲	-10 ~ +60°C

インジケータランプ	アイコン
回転警告灯 (赤色灯)	●
警告灯 (赤色灯)	△
ターンランプ (緑色灯)	↔
ハイビームランプ (青色灯)	≡○
ニュートラルランプ (緑色灯)	N
エンジン警告灯 (黄色灯)	⚙
オイルチェックランプ (赤色灯)	⛽
ABS ランプ (黄色灯)	Ⓢ

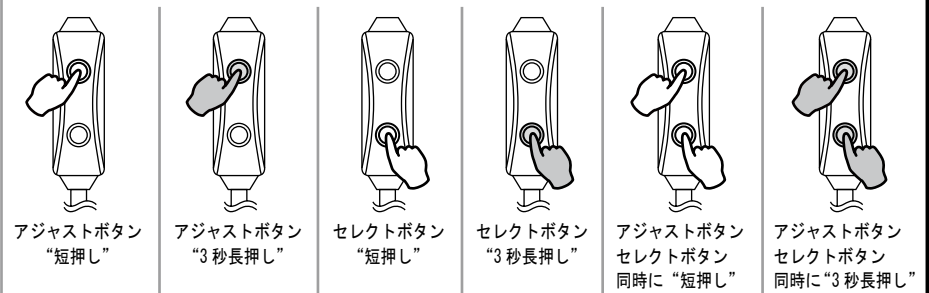
メーター外部スイッチ詳細

メーター外部スイッチは、下イラストの様に配線ケーブルが下にある状態で取り付け下さい。
下イラストを取り付け状態とし、
上ボタンを“アジャストボタン”、
下ボタンを“セレクトボタン”とします。



メーター外部スイッチの操作方法

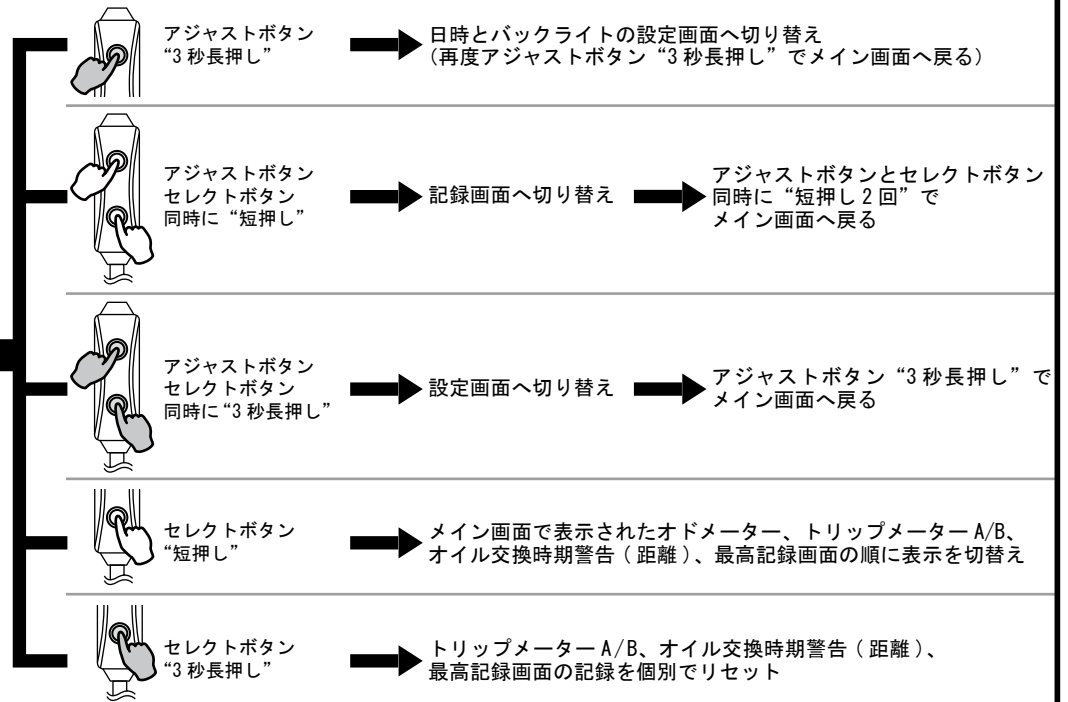
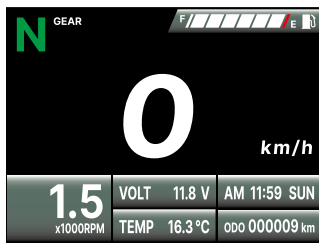
メーター外部スイッチの操作は、アジャストボタン（上ボタン）“短押し”“3秒長押し”、セレクトボタン（下ボタン）“短押し”“3秒長押し”、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”の各種押し方により、機能設定や表示切り替えを行います。
下記ボタンの押し方（説明書表示方法）をご確認下さい。



■メイン画面 スイッチ操作

下記はメイン画面の状態から各ボタンを“短押し”、又は“3秒長押し”した場合のボタン機能になります。

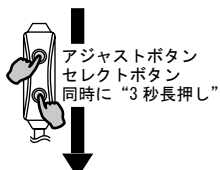
メイン画面



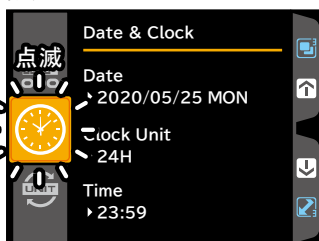
■設定画面 スイッチ操作

下記はメイン画面の状態からアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“3秒長押し”し、設定画面に切り替えた状態です。そこから各ボタンを“短押し”、又は“3秒長押し”した場合のボタン機能になります。

メイン画面



設定画面

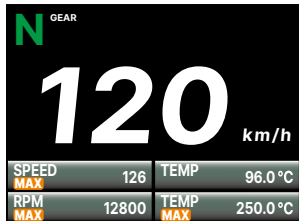


■チェック画面 スイッチ操作

メイン画面
アジャストボタン、セレクトボタン
同時に“短押し”

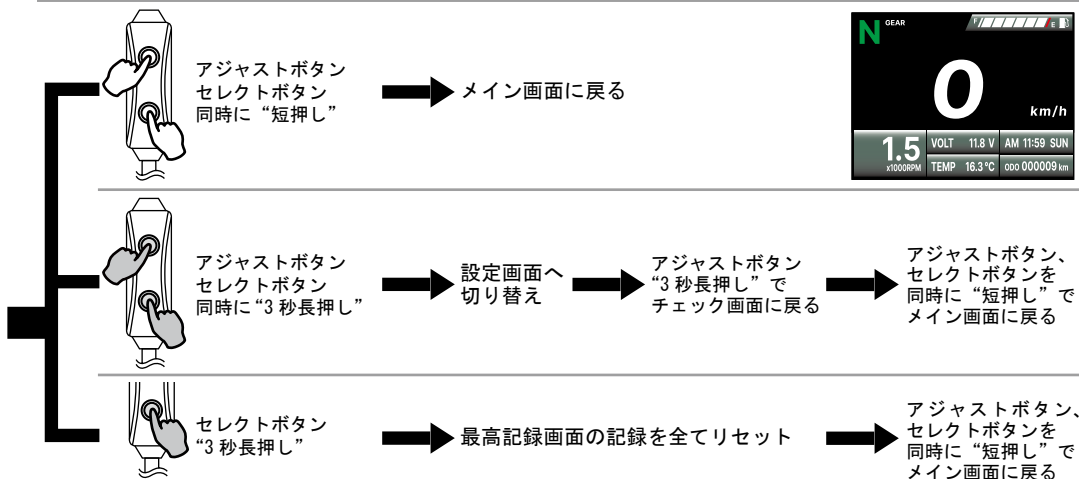
記録画面
アジャストボタン、セレクトボタン
同時に“短押し”

チェック画面



アジャストボタン、セレクトボタン
同時に“短押し”でメイン画面に戻る

下記はメイン画面の状態からアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”し、記録画面に切り替えた後、更にアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”し、チェック画面に切り替えた状態です。そこから各ボタンを“短押し”、又は“3秒長押し”した場合のボタン機能になります。



■記録画面 スイッチ操作

メイン画面

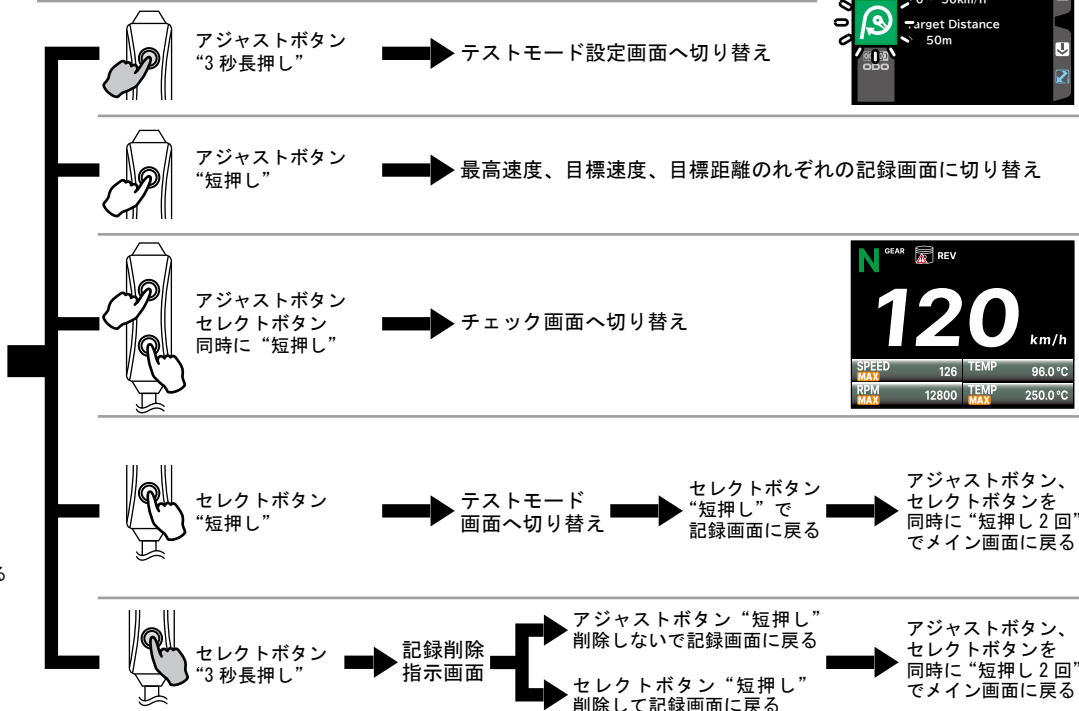
アジャストボタン
セレクトボタン
同時に“短押し”

記録画面

Target Speed (km/h.m)				
No.	Time	Speed	RPM	DST
★ 0	20:07	120	12610	279
2	0:21.28	120	12610	282
3	0:23.28	120	11530	283
4	0:25.03	120	10840	285
5	0:26.09	120	10290	286
6	0:26.22	120	10280	290
7	0:29.02	120	9430	325
8	0:29.05	120	9250	350

アジャストボタン、セレクトボタン
同時に“短押し2回”でメイン画面に戻る

下記はメイン画面の状態からアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”し、記録画面に切り替えた状態です。そこから各ボタンを“短押し”、又は“3秒長押し”した場合のボタン機能になります。

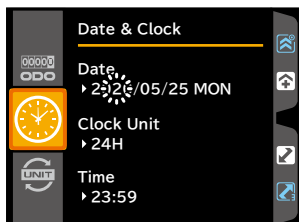


■機能設定画面 スイッチ操作

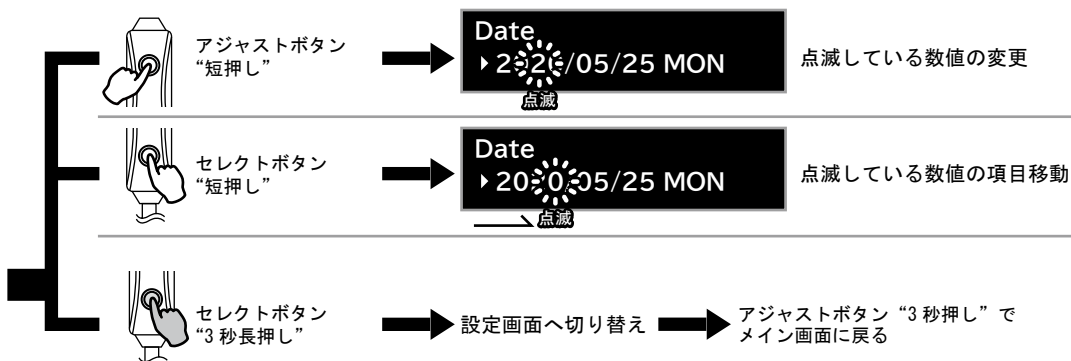
メイン画面
アジャストボタン、
セレクトボタン同時に“3秒長押し”

設定画面
セレクトボタン“3秒長押し”

機能設定画面



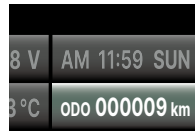
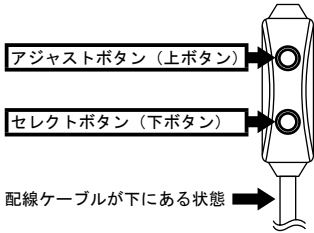
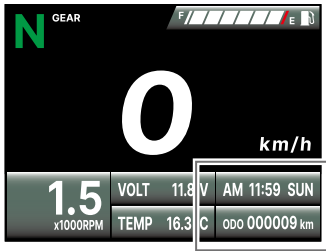
下記はメイン画面の状態からアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“3秒長押し”し、に切り替えた後、更にセレクトボタンを“3秒長押し”し、チェック画面に切り替えた状態です。そこから各ボタンを“短押し”、又は“3秒長押し”した場合のボタン機能になります。



メイン画面機能表示切り替え

- メイン画面でメーター外部スイッチのセレクトボタン“短押し”を行う事で、液晶画面に表示された機能表示を切り替えてご覧頂けます。
- メイン画面での機能表示切り替えは、ODO(オドメーター)表示部分(オド、トリップA、トリップB、トリップO)、メイン画面部(最高記録)になります。表示はすべて、メーター外部スイッチのセレクトボタン“短押し”で切り替わります。

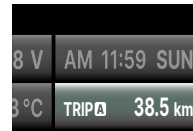
メイン画面



オドメーター

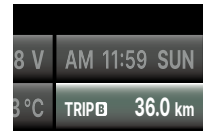


セレクトボタン
“短押し”

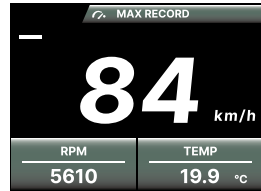


トリップメーター A
セレクトボタン 3 秒長押し
で数値をクリアにする
事が出来ます。

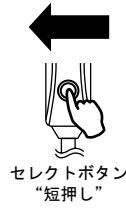
セレクトボタン
“短押し”



トリップメーター B
セレクトボタン 3 秒長押しで数値
をクリアにする事が出来ます。



最高記録 (画面切り替え)
セレクトボタン 3 秒長押しで数値を
クリアにする事が出来ます。
記録画面の状態で行走すると、自動
でメイン画面に切り替わります。

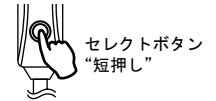


セレクトボタン
“短押し”



オイル交換時期警告
セレクトボタン 3 秒長押し
で数値をクリアにする
事が出来ます。

※オイル交換時期警告を非表示にしてい
る場合、最高記録にスキップします。



セレクトボタン
“短押し”

記録画面の切り替え方法

警告 記録画面、又はチェック画面に切り替えると速度計が表示されなくなります。走行を行う場合は、必ずメイン画面に戻して下さい。

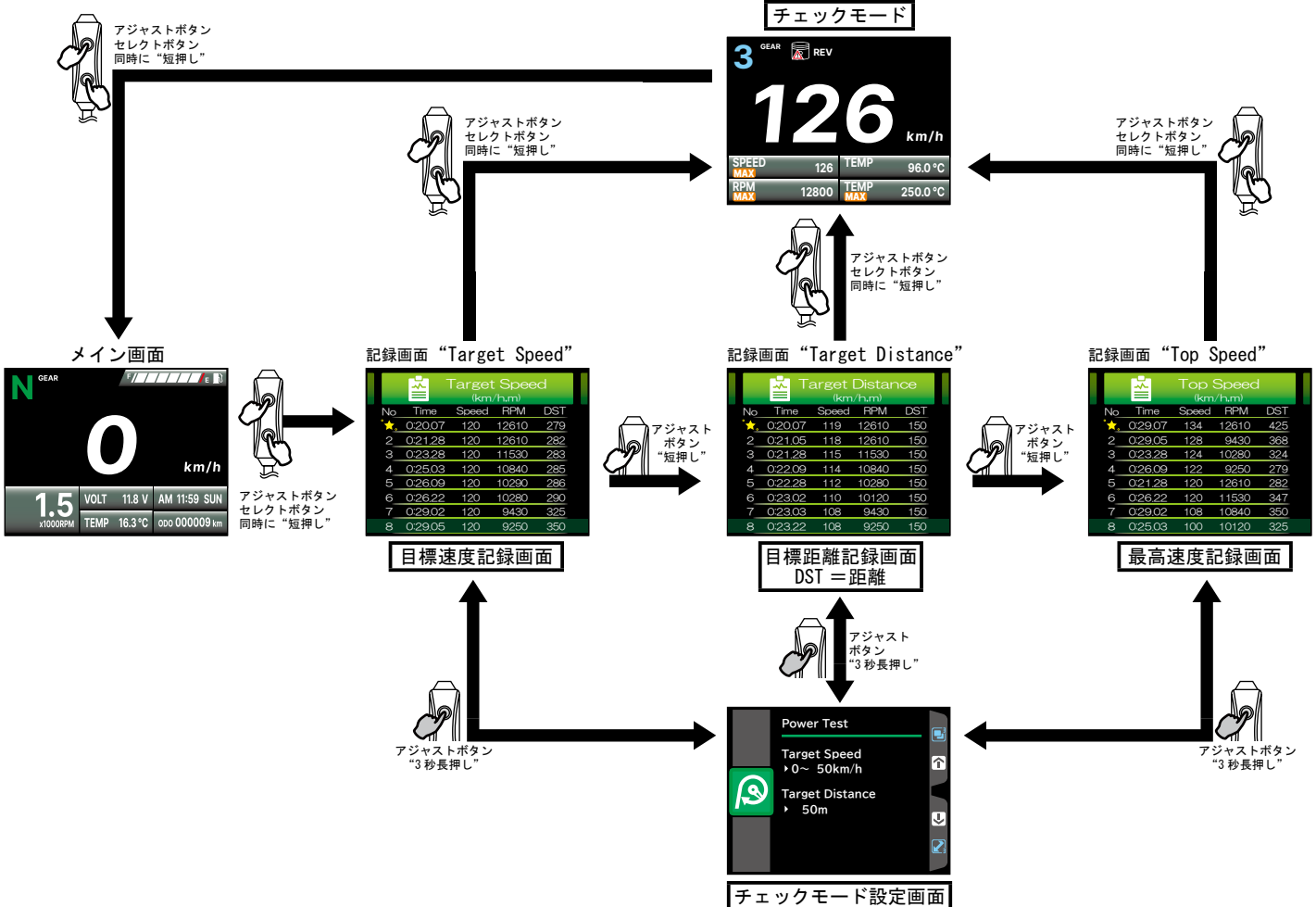
■記録画面への切り替え方法

メイン画面でアジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”する事で、記録画面“Target Speed”が表示されます。さらにアジャストボタン“短押し”を行う事で、記録画面“Target Distance”、さらにアジャストボタン“短押し”で記録画面“Top Speed”が表示されます。この記録画面でアジャストボタン“短押し”を繰り返すとこの3つの記録画面がループされます。

■記録表示について

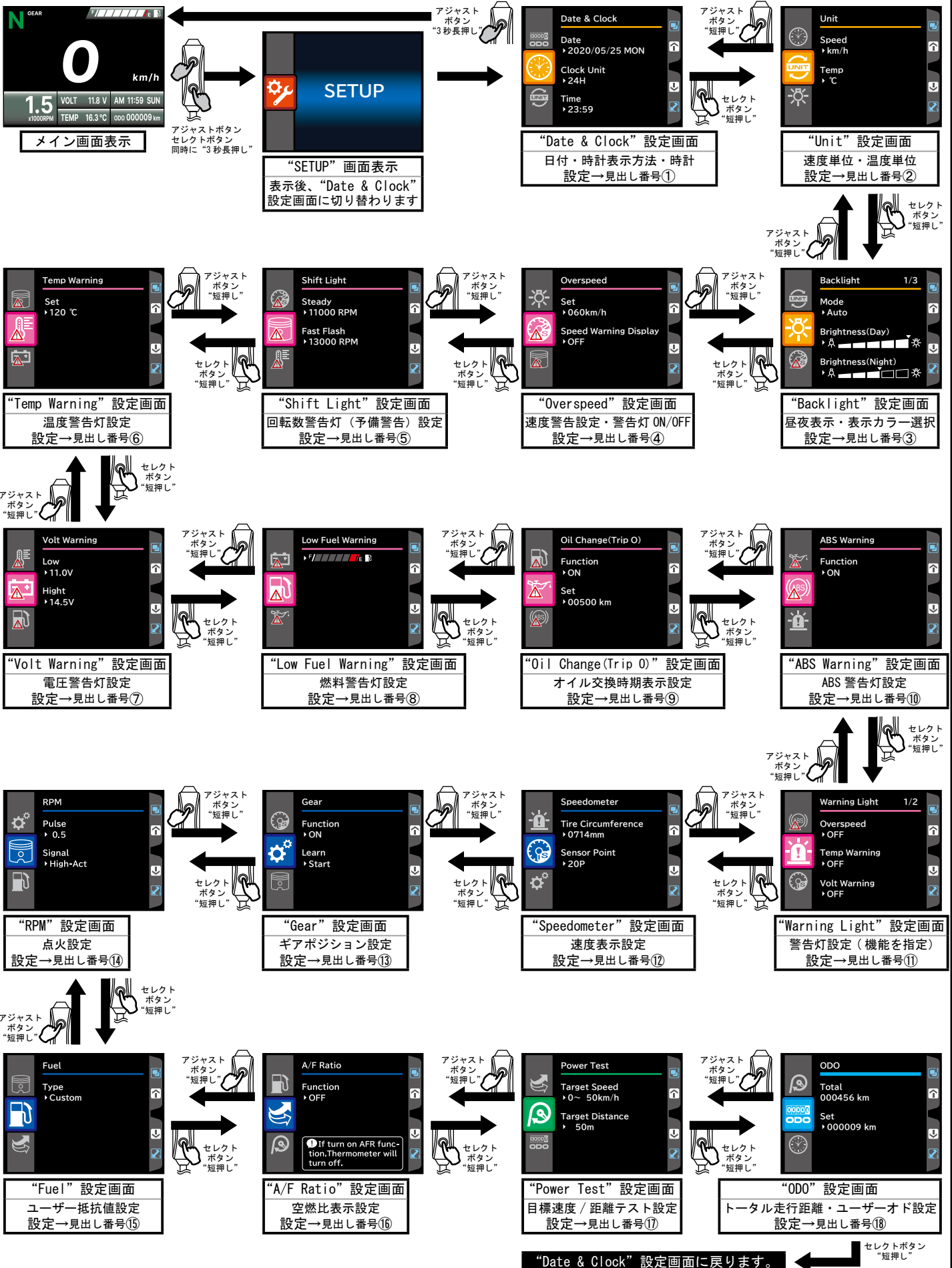
各項目 (Target Speed/Target Distance/Top Speed) の“Best (良結果)”が記録のトップに★(星マーク)付きで表示されます。No. 2 以降はベスト順に表示します。

チェックモードの設定画面へは各記録画面の状態、アジャストボタン“長押し”により、チェックモード設定画面に切り替わります。チェックモードの設定につきましては、見出し番号⑦をご覧ください。



SET UP (セッティング) 画面の入り方と各種設定画面の切り替え方法

- SET UP (セッティング) 画面は各種設定の変更が行えます。SET UP 画面へは、メイン画面の状態、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“3 秒長押し”します。
- 各機能項目への切り替えはアジャストボタン (上スクロール)、セレクトボタン (下スクロール) の“短押し”により、切り替え出来ます。
- 更に選択する機能設定画面に入るには、セレクトボタン“3 秒長押し”を行います。
- 選択した機能内での項目切り替えや数値変更は、アジャストボタン“短押し”、次項目への移動や数値決定はセレクトボタン“短押し”になります。



① Date & Clock (日付・時計設定)

1

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でタイトルに“Date & Clock”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Date & Clock”(日付・時計設定)に入ります。



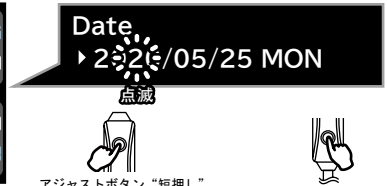
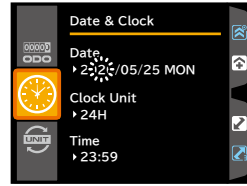
アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。

設定画面



セレクトボタン“3秒長押し”

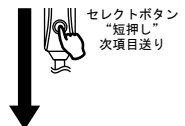
機能設定画面



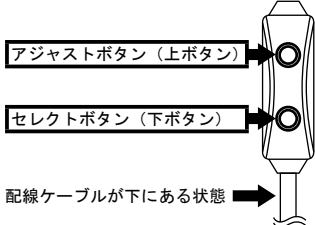
アジャストボタン“短押し”
数字変更
アジャストボタン“長押し”
数字変更の早送り

セレクトボタン“短押し”
数字の決定
セレクトボタン“長押し”
次項目送り

機能設定画面に入ると、項目Dateに入り、年号20XXの10の位の数字が点滅します。ここで年号を入力します。点滅している10の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。アジャストボタン“長押し”で数字変更の早送りが出てきます。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次の1の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後の1の位を決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、次項目(日付)に移動します。
年号設定範囲: 2000 ~ 2099



セレクトボタン“短押し”
数字の決定
セレクトボタン“長押し”
次項目送り

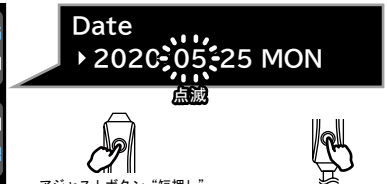
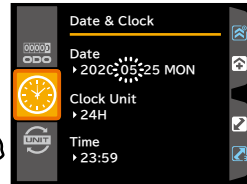


アジャストボタン (上ボタン)

セレクトボタン (下ボタン)

配線ケーブルが下にある状態

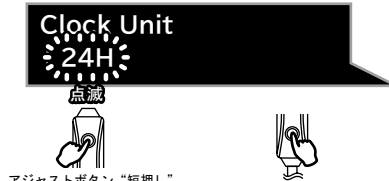
セレクトボタン“短押し”
次項目送り



アジャストボタン“短押し”
数字変更
アジャストボタン“長押し”
数字変更の早送り

セレクトボタン“短押し”
数字の決定
セレクトボタン“長押し”
次項目送り

日付の月の数字が点滅します。ここで日付を入力します。点滅している数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。アジャストボタン“長押し”で数字変更の早送りが出てきます。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定する設定完了となり、次項目(日)に移動します。日の数字が点滅します。日も月と同様の方法で入力します。日を決め(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となります。※曜日は自動で切り替わります。

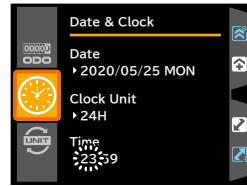


アジャストボタン“短押し”
12H/24Hの変更
アジャストボタン“長押し”
12H/24Hの早送り

セレクトボタン“短押し”
12H/24Hの決定
セレクトボタン“長押し”
次項目送り

Clock Unit(時計表示方法)に入ると、12H、又は24Hの表示が点滅します。ここで12H、又は24Hの表示方法を選択します。12Hと24Hの切り替えは、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、次項目Time(時計)に移動します。

セレクトボタン“短押し”
次項目送り

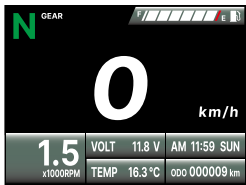


アジャストボタン“短押し”
時間変更
アジャストボタン“長押し”
時間変更の早送り

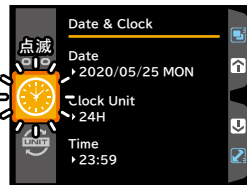
セレクトボタン“短押し”
時間の決定
セレクトボタン“長押し”
次項目送り

Time(時計)に入ると、時間の(時)の部分が点滅し、設定が行えます。ここで時間を入力します。(時)の部分はアジャストボタン(短押し)を押す事で、12H(1時~12時)24H(0時~23時)に数字の変更が行えます。アジャストボタン“長押し”で数字変更の早送りが出てきます。セレクトボタン“短押し”で決定となります。12H表示を選択した場合、AM、又はPMの部分のどちらか同時に点滅します。時間設定時、AMとPMの点滅を確認し、午前か午後か判断して下さい。

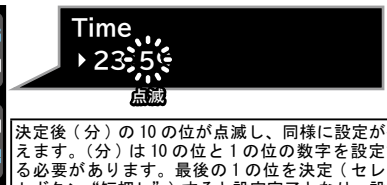
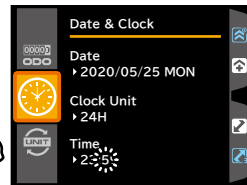
メイン画面



設定画面



セレクトボタン“短押し”
次項目送り

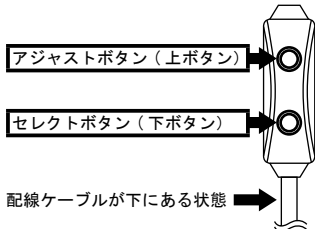
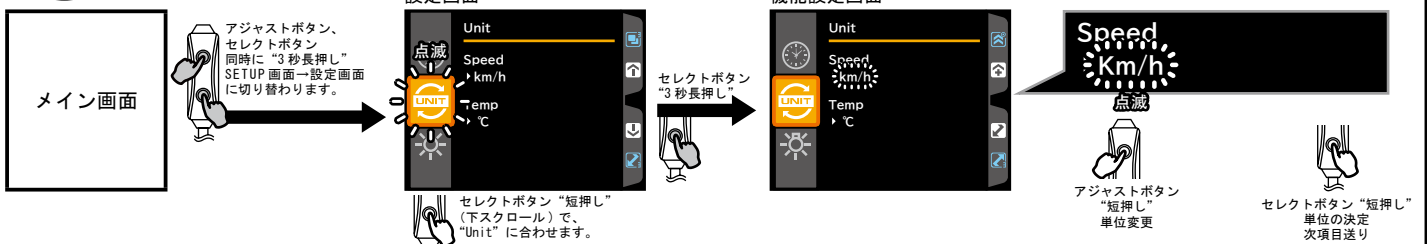


決定後(分)の10の位が点滅し、同様に設定が行えます。(分)は10の位と1の位の数字を設定する必要があります。最後の1の位を決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、設定画面に切り替わります。

② Unit (速度・温度単位設定)

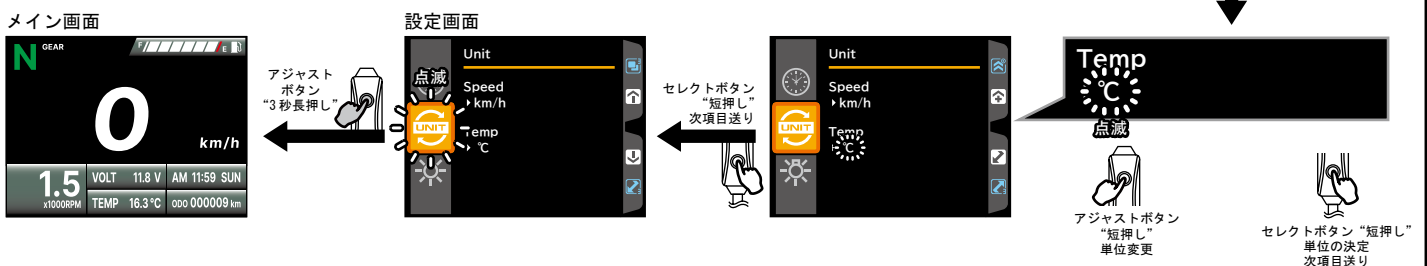
2

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Unit”に合わせます。タイトルに“Unit”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Unit”（速度・温度設定）に入ります。



機能設定画面に入ると、項目 Speed に入り、速度の単位 km/h、又は MPH の表示が点滅します。ここで速度の単位を設定します。点滅している km/h と MPH の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。単位の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると設定完了となり、次項目 Temp.（温度）に移動します。

⚠️ ご注意下さい。
日本はメートル法の為、km/h を選択して下さい。



Temp.（温度）に入ると、°C（摂氏）、又は°F（華氏）の表示が点滅します。ここで温度の単位を設定します。°C、と°Fの切り替えは、アジャストボタン“短押し”で行います。単位の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると設定完了となり、設定画面に切り替わります。

⚠️ ご注意下さい。
°C（摂氏）を選択して下さい。

③ Backlight (バックライト設定)

3

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Backlight”に合わせます。タイトルに“Backlight”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Backlight”（バックライト設定）に入ります。



アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。



セレクトボタン“3秒長押し”



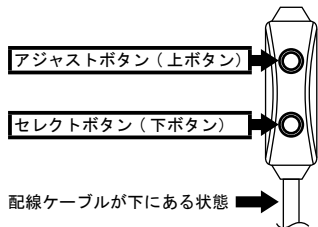
アジャストボタン“短押し”モード変更

セレクトボタン“短押し”モードの決定次項目送り

機能設定画面に入ると、項目Modeに入り、Auto、Day、Nightのいずれかが点滅します。ここで液晶のバックライトの表示方法を設定します。点滅している各モードの変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。単位の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると設定完了となり、次項目Brightness(Day)に移動します。

バックライトの表示方法の仕様

■ Auto: 光（環境）に応じて自動的に切り替わります。明るい環境ではDayモード 暗い環境ではNightモード



アジャストボタン（上ボタン）

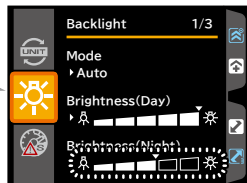
セレクトボタン（下ボタン）

配線ケーブルが下にある状態

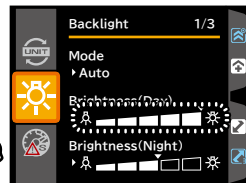


アジャストボタン“短押し”輝度目盛り変更

セレクトボタン“短押し”輝度目盛りの決定次項目送り



セレクトボタン“短押し”次項目送り



アジャストボタン“短押し”輝度目盛り変更

セレクトボタン“短押し”輝度目盛りの決定次項目送り

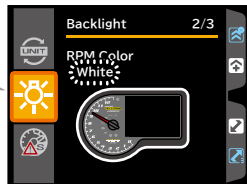
Brightness(Night)に入ると、輝度調整表示の目盛りが点滅します。ここでNightモードでの輝度調整を設定します。Nightモードは1～5目盛りの範囲で調整可能。輝度ゲージの調整は、アジャストボタン“短押し”で行います。輝度調整の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると設定完了となり、次項目RPM Colorに移動します。
Nightモード輝度調整範囲：1～5目盛り 1目盛り20%

Brightness(Day)に入ると、輝度調整表示の目盛りが点滅します。ここでDayモードでの輝度調整を設定します。Dayモードは1～5目盛りの範囲で調整可能。輝度目盛りの調整は、アジャストボタン“短押し”で行います。輝度調整の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると設定完了となり、次項目Brightness(Night)に移動します。
Dayモード輝度調整範囲：1～5目盛り 1目盛り20%

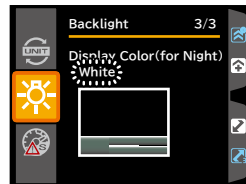


アジャストボタン“短押し”カラー変更

セレクトボタン“短押し”カラーの決定次項目送り



セレクトボタン“短押し”次項目送り



アジャストボタン“短押し”カラー変更

セレクトボタン“短押し”カラーの決定次項目送り

RPM Color（指針タコメーターの目盛りのカラー変更）に入ると、カラー表示（White）が点滅します。ここで指針タコメーターの目盛りのカラーを選択します。カラーの切り替えは、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次項目Display Color(for Night)に移動します。
カラーラインナップ：白、赤、橙、緑、青、黄
変更時、液晶に表示されたイラストのカラーも同時に変更。

Display Color(for Night)（液晶画面カラー変更）カラー表示（White）が点滅します。ここで液晶画面のカラーを選択します。（White：カラー無し）カラーの切り替えは、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に切り替わります。
カラーラインナップ：白、赤、橙、緑、青、黄
変更時、液晶に表示されたイラストのカラーも同時に変更。※Whiteはカラー無しになります。



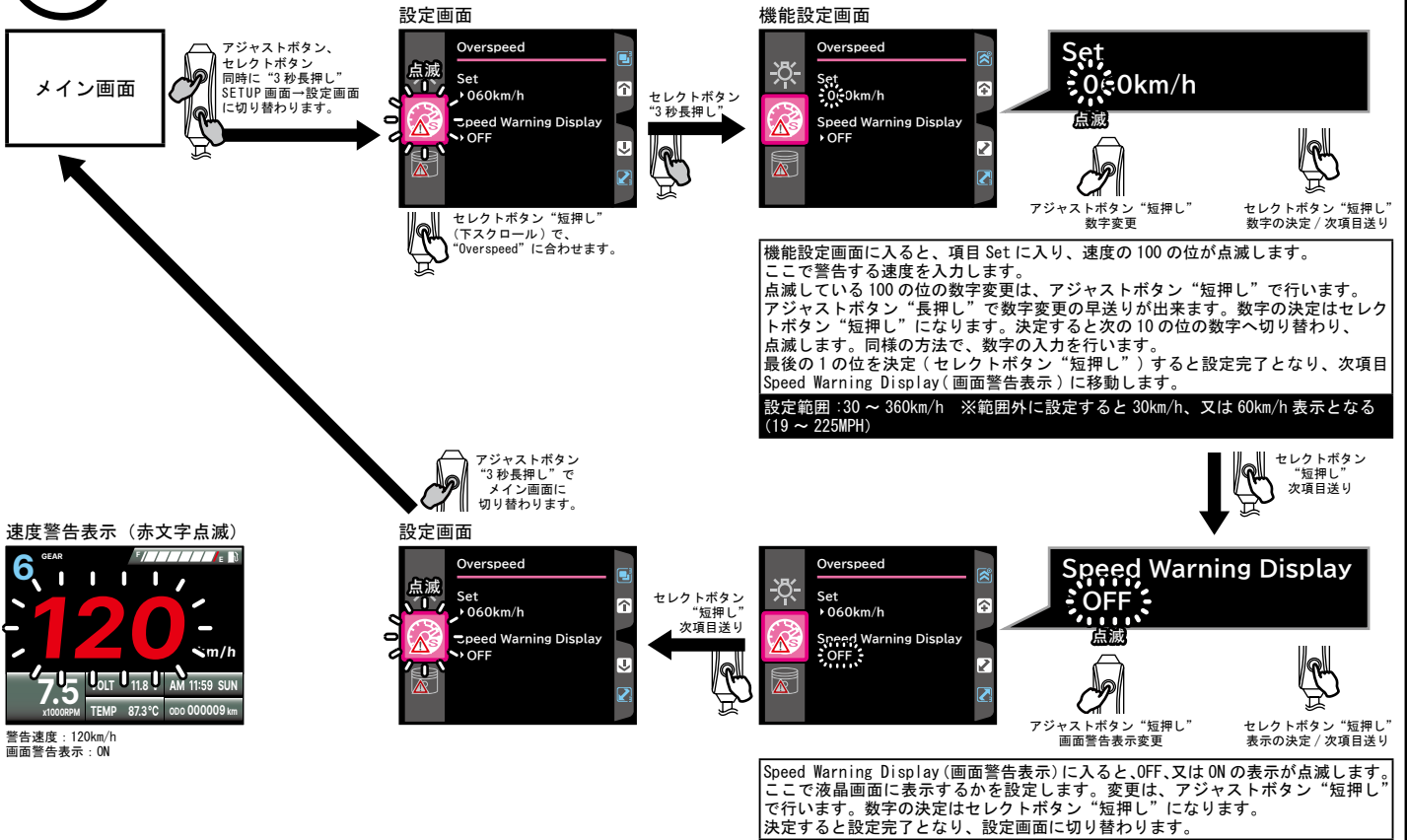
アジャストボタン“3秒長押し”



④ Overspeed（速度警告設定）

4

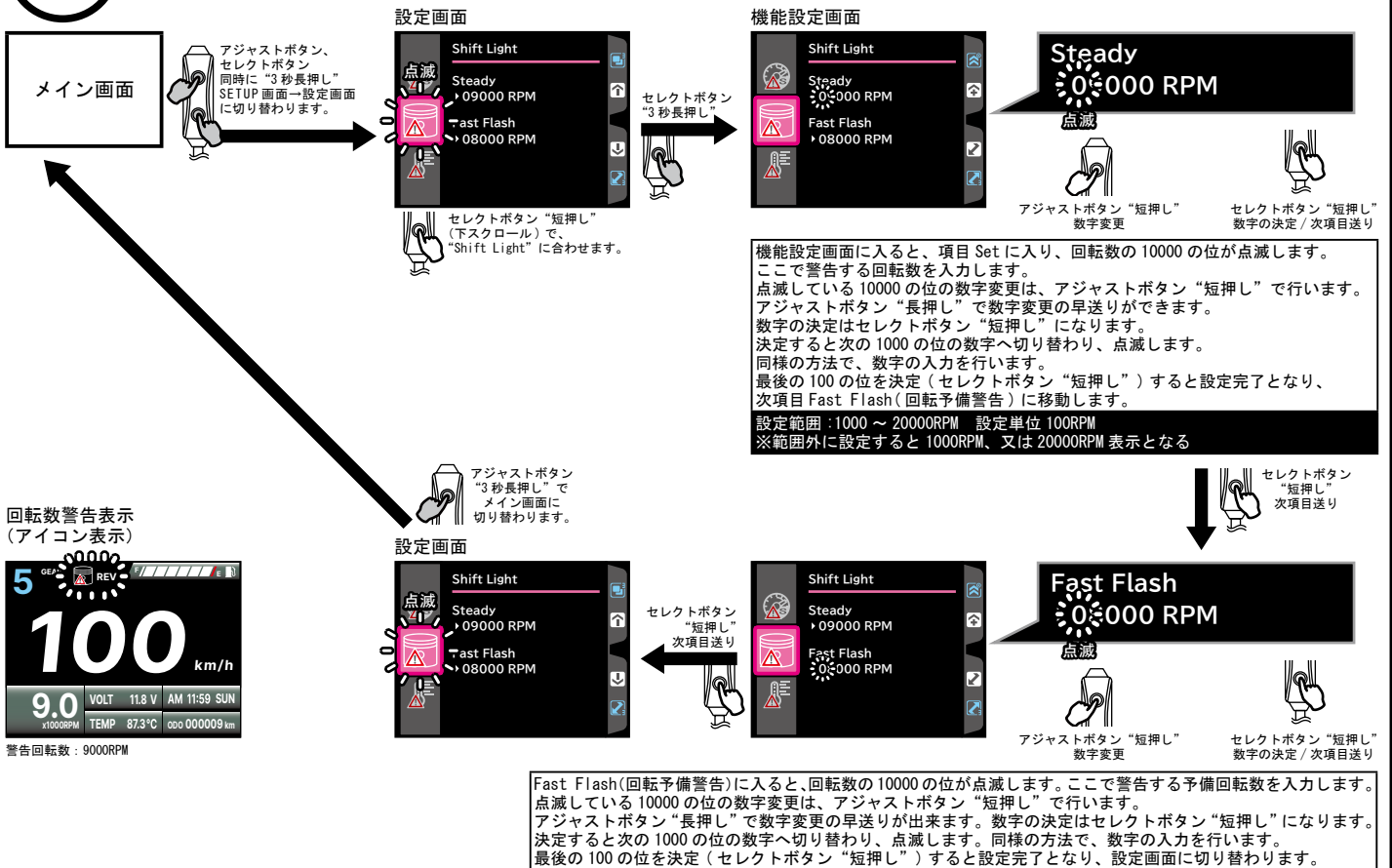
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Overspeed”に合わせます。タイトルに“Overspeed”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Overspeed”（速度警告設定）に入ります。



⑤ Shift Light（回転警告設定）

5

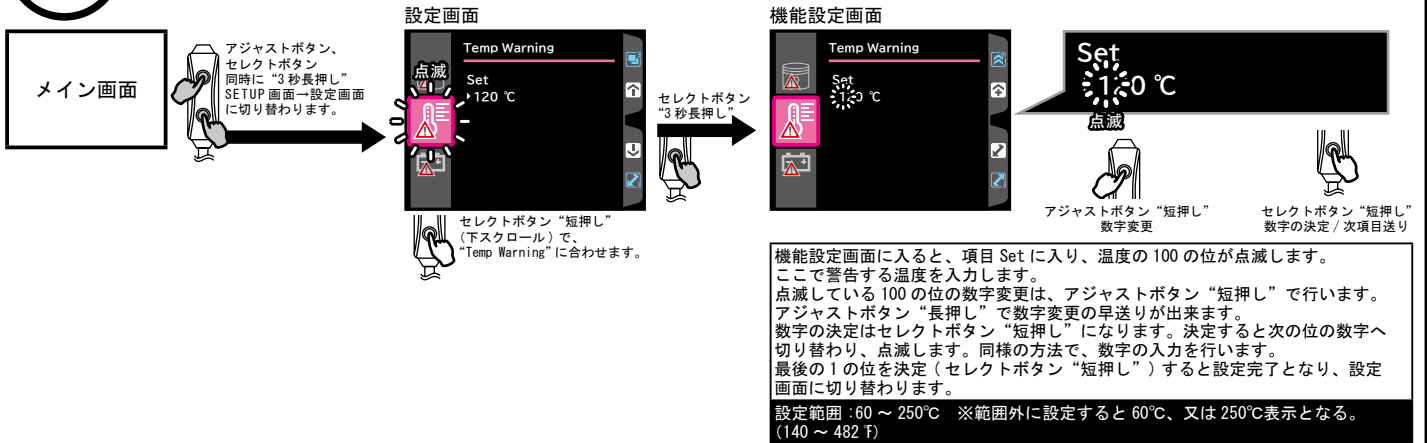
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Shift Light”に合わせます。タイトルに“Shift Light”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Shift Light”（回転警告設定）に入ります。



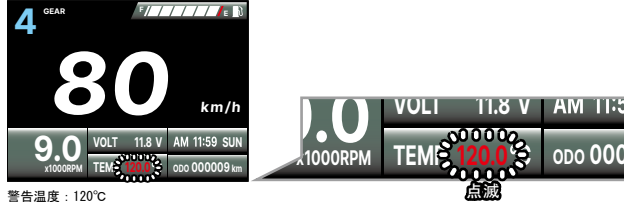
⑥ Temp Warning（温度警告設定）

6

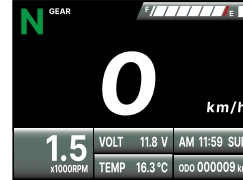
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Temp Warning”に合わせます。タイトルに“Temp Warning”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Temp Warning”（温度警告設定）に入ります。



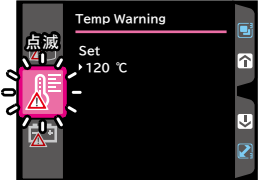
温度警告表示（赤文字点滅）



メイン画面



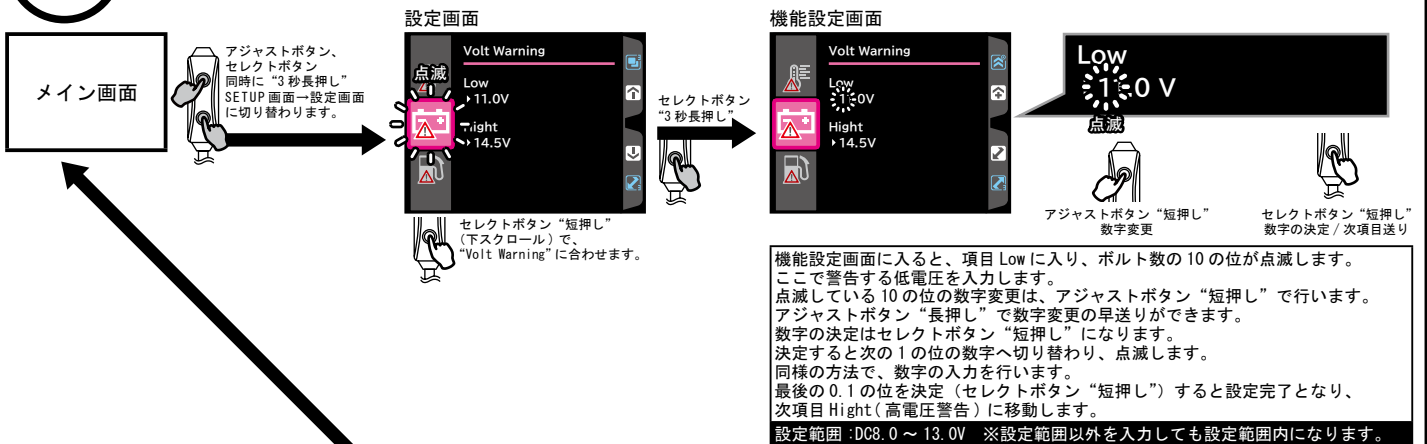
設定画面



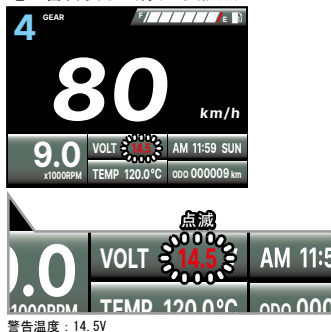
⑦ Volt Warning（電圧警告設定）

7

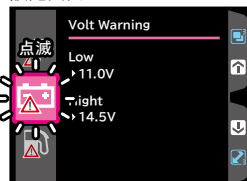
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Volt Warning”に合わせます。タイトルに“Volt Warning”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Volt Warning”（電圧警告設定）に入ります。



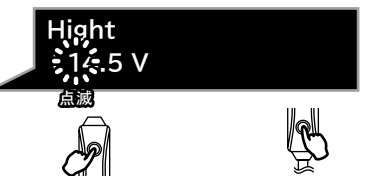
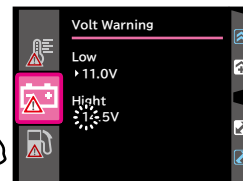
電圧警告表示（赤文字点滅）



設定画面



セレクトボタン“短押し”
次項目送り



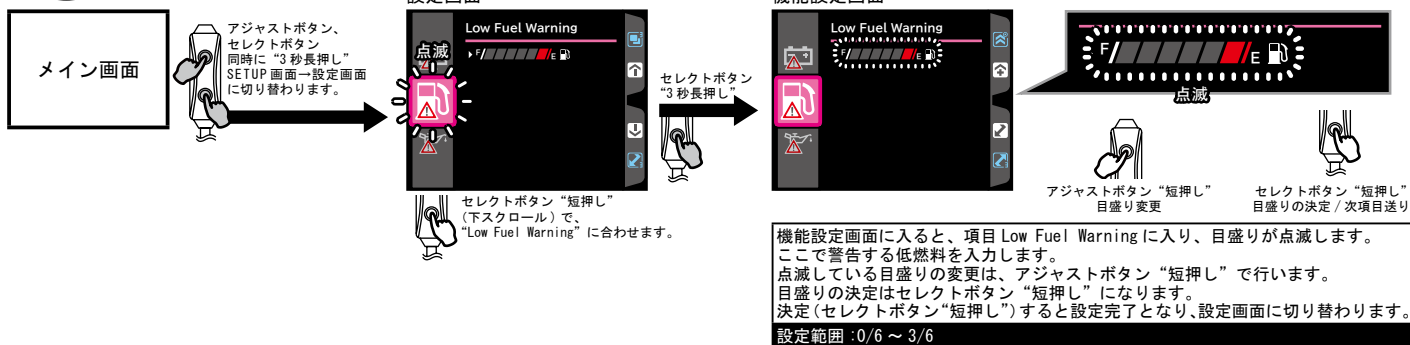
High（高電圧警告）に入ると、ボルト数の 10 の位が点滅します。ここで警告する高電圧を入力します。点滅している 10 の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。アジャストボタン“長押し”で数字変更の早送りが出てきます。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次の 1 の位の数字へ切り替わり、点滅します。同様の方法で、数字の入力を行います。最後の 0.1 の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に切り替わります。

設定範囲：DC13.1 ~ 18.0V ※設定範囲以外を入力しても設定範囲内になります。

⑧ Low Fuel Warning (燃料警告設定)

8

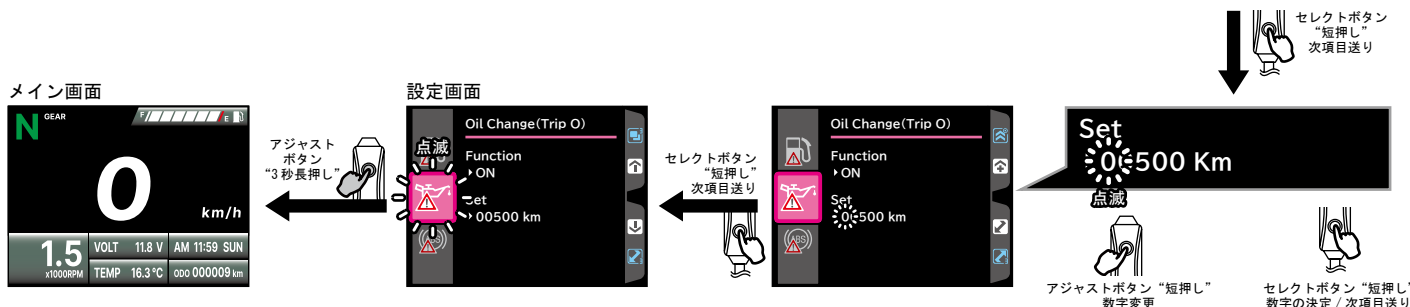
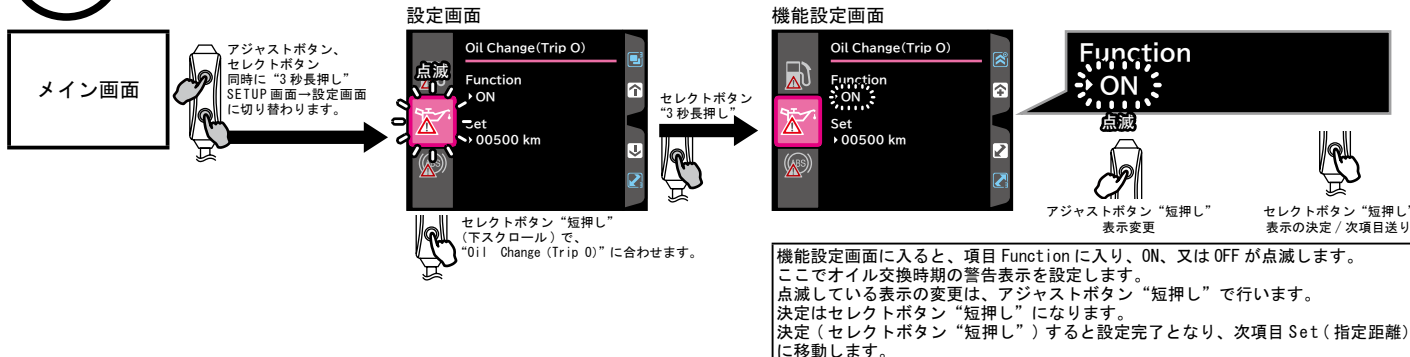
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Low Fuel Warning”に合わせます。タイトルに“Low Fuel Warning”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Low Fuel Warning”（燃料警告設定）に入ります。



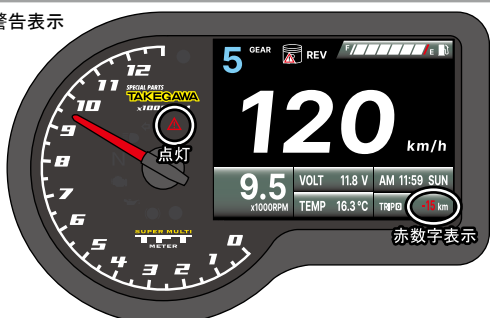
⑨ Oil Change (Trip 0) (オイル交換時期警告設定)

9

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Oil Change (Trip 0)”に合わせます。タイトルに“Oil Change (Trip 0)”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Oil Change (Trip 0)”（オイル交換時期警告設定）に入ります。



オイル交換時期警告表示

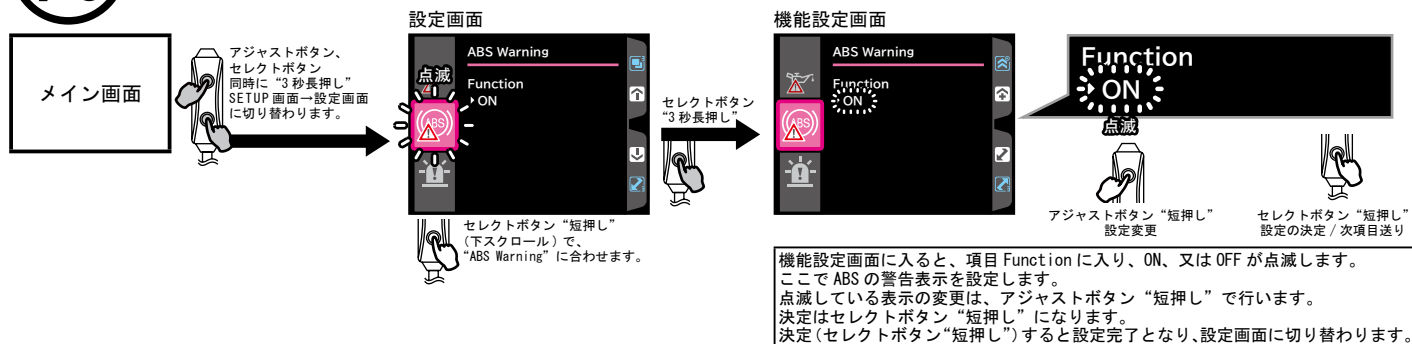


Set（指定距離）に入ると、10000の位が点滅します。ここで警告する指定距離を入力します。点滅している10000の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。アジャストボタン“長押し”で数字変更の早送りが出来ます。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次の1000の位の数字へ切り替わり、点滅します。同様の方法で、数字の入力を行います。最後の100の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に切り替わります。設定範囲：500 ~ 16000km ※設定範囲以外を入力しても設定範囲内になります。

⑩ ABS Warning (ABS 警告設定)

10

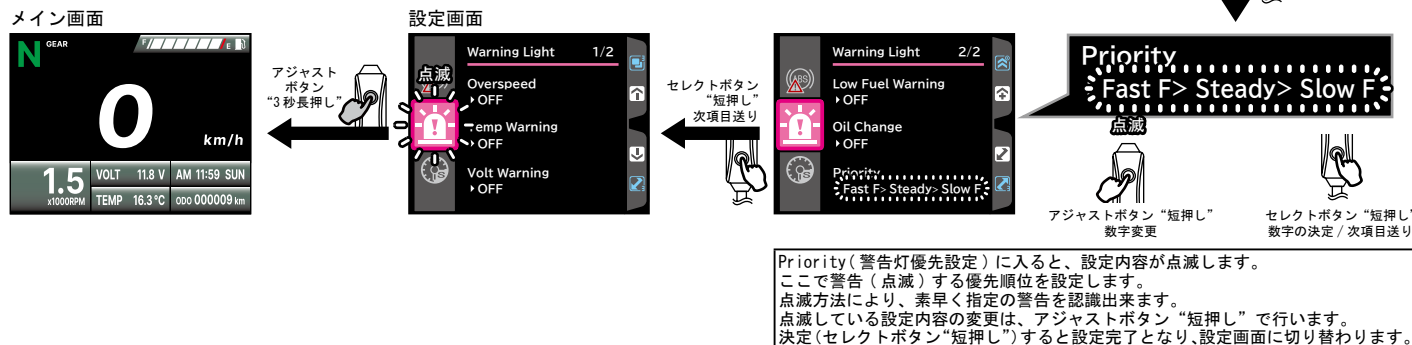
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“ABS Warning”に合わせます。タイトルに“ABS Warning”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“ABS Warning”（ABS 警告設定）に入ります。



⑪ Warning Light (警告灯設定)

11

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Warning Light”に合わせます。タイトルに“Warning Light”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Warning Light”（警告灯設定）に入ります。



警告灯優先順位一覧

パターン1. Fast Flash > Steady > Slow Flash
パターン2. Fast Flash > Slow Flash > Steady
パターン3. Steady > Fast Flash > Slow Flash
パターン4. Steady > Slow Flash > Fast Flash
パターン5. Slow Flash > Fast Flash > Steady
パターン6. Slow Flash > Steady > Fast Flash

12

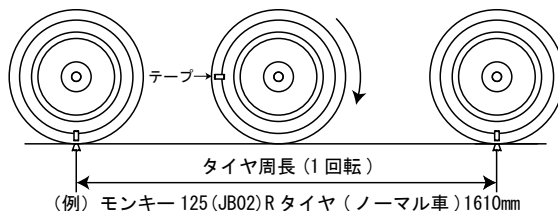
■ 純正速度センサーの設定方法

必要となる数値は“ドライブsprocket (丁数)” “ドリブンスprocket (丁数)” “タイヤ周長”になります。

(例) モンキー 125 (JB02) (ノーマル車) ドライブsprocket (数値 A) : 15T ドリブンスprocket (数値 B) : 34T

※設定後、タイヤサイズを変更した場合は必ず設定を変更して下さい。

数値 C
タイヤ周長 (mm)
例) 1610mm



数値 A
ドライブプロケット
例) 15T

数値 B
ドリブンスプロケット
例) 34T

数値 C

タイヤ周長 (mm)

例) 1610mm

速度信号長さの数値
(mm)
例) ≒ 710mm

信号数 P (JB02)
信号を拾うポイント数 例) 31

メイン画面

アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。

Speedometer

点滅

Tire Circumference
→ 0714mm

Sensor Point
→ 06P

セレクトボタン“短押し”（下スクロール）で、“Speedometer”に合わせます。



Tire Circumference
0 10mm

- 点滅
 - アジャストボタン“短押し”
数字変更
 - セレクトボタン“短押し”
数字の決定 / 次項目送り

機能設定画面に入ると、項目 Tire Circumference に入り、1000 の位が点滅します。
ここで計算で出した「速度信号長さ」の数値を入力します。
点滅している数字の変更は、アジャストボタン「短押し」で行います。
決定はセレクトボタン「短押し」になります。
決定（セレクトボタン「短押し」）すると設定完了となり、次の位に移動します。
最後に 1 の位を決定（セレクトボタン「短押し」）すると設定完了となり、次項目
Sensor Point（信号数入力）に移動します。※入力はまだ確定しておりません。

設定範囲：300mm～2500mm 設定単位：1mm

設定範囲: 300mm ~ 2500mm 設定単位: 1mm

セレクトボタン
“短押し”
次項目送り



Sensor Point
00P

- 

点滅

アジャストボタン “短押し”
数字変更
- 

セレクトボタン “短押し”
数字の決定 / 次項目選択

Sensor Point (信号数入力画面)に入ると、10の位が点滅します。
ここで、純正速度センサーが読み込む「信号数」(信号を拾う純正ミッションのギアの歯数)を入力します。
点滅している10の位の数字変更は、アジャストボタン「短押し」で行います。
数字の決定はセレクトボタン「短押し」になります。
決定すると次は1の位の数字へ切り替わり、点滅します。
最後に1の位を決定(セレクトボタン「短押し」)すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定しておりません。ご注意ください。
更に設定画面でアジャストボタン「3秒長押し」を行い、メイン画面に戻して下さい。
これで設定が確定されます。

設定範囲 : 01P ~ 40P

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3秒長押し”を行い、メイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

上記製品を装着されている場合、スプロケットを変更してもノーマルドライブスプロケットの丁数、ノーマルドリブンスプロケット丁数、ノーマルタイヤ周長で計算式に当てはめて値を割り出し、メーターに数値を入力して下さい。
スプロケットやクロスミッション装着時の速度表示の設定はSP 武川製スピードセンサー側で行います。

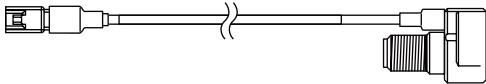
12

■速度信号長さとセンサーポイント設定
タイヤ周長を測定します。下記イラストの“タイヤ周長の測り方”を参考に計測します。測定後、下記計算式に数値を当てはめて計算を行います。これにより、速度信号長さの数値を求めます。
そして、純正速度センサー、JIS ケーブル式速度センサー、金属反応式速度センサーのいずれかの信号数を入力し、設定を完了します。

■ JIS ケーブル式速度センサーについて

付属の JIS ケーブル式速度センサーの上限回転数は 4200rpm ≒ 180km/h 相当まで。
180km/h 以上の速度表示が必要な場合は、金属反応式速度センサーをご使用下さい。メーターの最高表示は 360km/h まで。
ケーブルがメーターケーブル接続部の奥まで差し込めた事を確認してから、ケーブルロックナットを締めて下さい。走行中にケーブルの接続が外れないようブライヤーなどを使いしっかりと取り付けて下さい。取り付け後も緩みがないか定期的に点検して下さい。

JIS ケーブル式速度センサー（コード長：約 300mm）

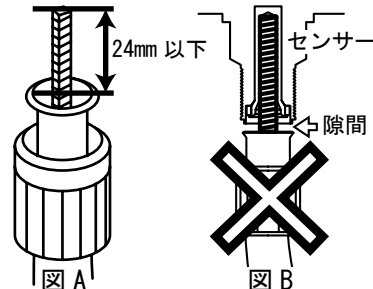


■当製品は JIS 規格に基いたケーブル差込部形状を採用しておりますが、輸入車及び一部国産車ではケーブル加工が必要な場合があります。

※ケーブルハウジングからのケーブルの飛び出し量を測って下さい（図 A）。

24mm を超える場合はその部分をカットして下さい。

図 B のように底づきし、上に押し上げた状態で使用されますと回転部が激しく磨耗してしまい、正確な速度を認識出来なくなってしまいます。



■ JIS ケーブル式速度センサーの速度信号長さ設定と速度信号回数設定について

- 車種に関わらず、ノーマルタイヤ、ノーマルメーターギアを使用している場合、メーター側の設定は 714mm、6 信号です。
国内車種は JIS 規格によりメーターケーブル回転数が 1400rpm 時 60km/h と定められており、これを換算した値が 714mm、6 信号である為です。
他車種のホイール流用などの場合でも、そのホイール用のメーターギアをセットで使用すれば、同様に標準補正値は 714mm、6 信号です。
- メーターギアはノーマルを使用しながら、タイヤ周長がノーマルから変化した場合は速度補正の必要があります。
外品のインチアップホイールに交換した場合、タイヤサイズを変更した場合。

■ JIS ケーブル式速度センサーの設定方法

■速度補正値調べ方 1

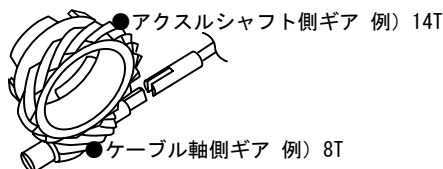
■メーターギアと現在装着している改造後タイヤ周長から割り出す方法です。
※分解時に破損の恐れがあります。十分に気を付けて作業を行って下さい。
下記計算式に必要な数値を当てはめて計算を行い、メーターに入力する数値を求めます。

■メーターギアボックス内にあるケーブル軸側ギアを“数値 A”
アクセルシャフト側ギアを“数値 B”とします。

（例）モンキー（ノーマル）

ケーブル軸側ギア（数値 A）：8T アクセルシャフト側ギア（数値 B）：14T

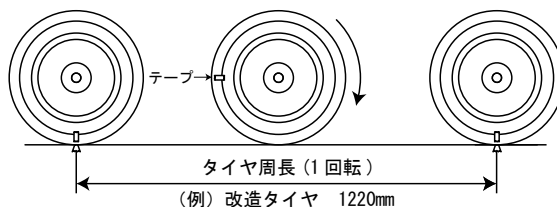
■メーターギアボックス内部



タイヤ周長の測り方 エアーバルブやテープにて目印決め、それを始点とし、タイヤを 1 周回転させた距離を測定します。

※設定後、タイヤサイズを変更した場合は必ず設定を変更して下さい。

■タイヤ周長を“数値 C”とします。



下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

$$\frac{\text{数値 A (ケーブル軸側ギア)}}{\text{数値 B (アクセルシャフト側ギア)}} \times \text{数値 C (タイヤ周長 (mm))} = \text{速度信号長さの数値}$$

例) 8T / 14T × 1220 mm = 例) ≒ 697mm

■速度信号回転設定（信号数）は“6”になります。

■速度補正値調べ方 2

■ノーマルタイヤと変更後のタイヤを比較する方法です。それぞれのタイヤ周長を測って下さい。
下記計算式に必要な数値を当てはめて計算を行い、メーターに入力する数値を求めます。

■変更後のタイヤ周長を“数値 A”、ノーマルタイヤ周長“数値 B”とします。

（例）変更後のタイヤ周長（数値 A）：1220mm ノーマルタイヤ周長（数値 B）：1250mm

下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

$$\frac{\text{数値 A (変更後のタイヤ周長)}}{\text{数値 B (ノーマルタイヤ周長)}} \times 714 = \text{速度信号長さの数値}$$

例) 1220mm / 1250mm × 714 = 例) ≒ 697mm

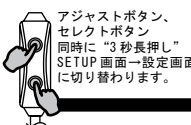
■速度信号回転設定（信号数）は“6”になります。

12

■ JIS ケーブル式速度センサーの設定方法の続き メーター入力方法

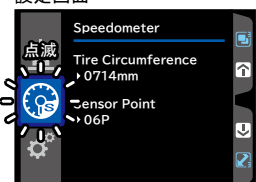
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3 秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Speedometer”に合わせます。タイトルに“Speedometer”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3 秒長押し”で機能設定画面“Speedometer”（速度表示設定）に入ります。

メイン画面



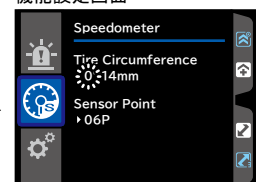
アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3 秒長押し”
SETUP 画面→設定画面に切り替わります。

設定画面



セレクトボタン“短押し”（下スクロール）で、“Speedometer”に合わせます。

機能設定画面



セレクトボタン“3 秒長押し”

Tire Circumference

014mm

点滅

アジャストボタン“短押し”
数字変更

セレクトボタン“短押し”
数字の決定 / 次項目送り

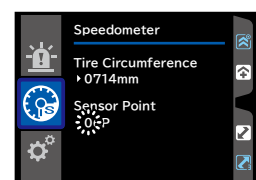
機能設定画面に入ると、項目 Tire Circumference に入り、1000 の位が点滅します。ここで計算で出した“速度信号長さ”の数値を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次の位に移動します。最後に 1 の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次項目 Sensor Point（信号数入力）に移動します。※入力はまだ確定していません。

設定範囲 : 300mm ~ 2500mm 設定単位 : 1mm

↓

セレクトボタン“短押し”
次項目送り

機能設定画面



アジャストボタン“短押し”
数字変更

Sensor Point

06P

点滅

アジャストボタン“短押し”
数字変更

セレクトボタン“短押し”
数字の決定 / 次項目送り

Sensor Point（信号数入力画面）に入ると、10 の位が点滅します。点滅している 10 の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次は 1 の位の数字へ切り替わり、点滅します。JIS ケーブル式速度センサーで反応する信号数“6”を入力最後に 1 の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。更に設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。これで設定が確定されます。

設定範囲 : 01P ~ 40P

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

12

■速度信号長さとセンサーポイント設定

■オプションパーツ 金属反応式速度センサーの設定方法

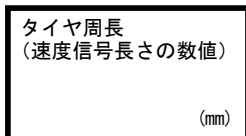
■金属反応式速度センサーの場合必要な数値を測定しメーターに入力します。

メーターに入力する為に必要な設定値

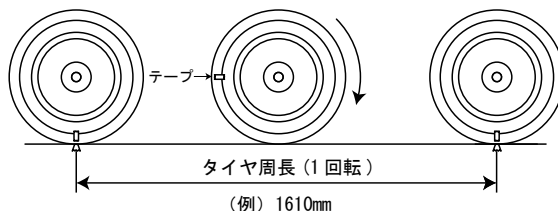
タイヤ周長（速度信号長さの数値）

信号数（金属反応式速度センサーの信号を拾うボルトの数）

■タイヤ周長の測定方法は右側イラストを参考にします。



例) 1610mm



■金属反応式速度センサーの信号数

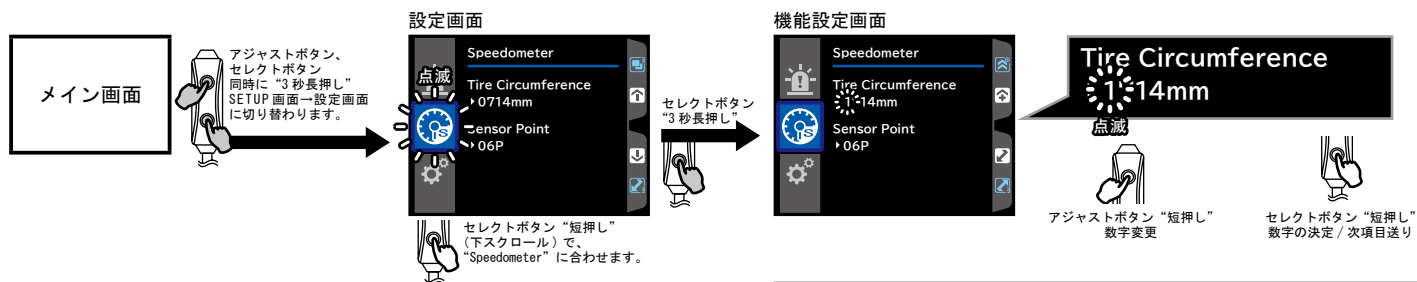
SP 武川製オプションパーツ 金属反応式速度センサーを使用し、ディスクボルト、又はスプロケットボルトで信号を拾います。この場合、信号を拾うボルト数を入力します。太枠内の数値が“信号数”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

信号数

P

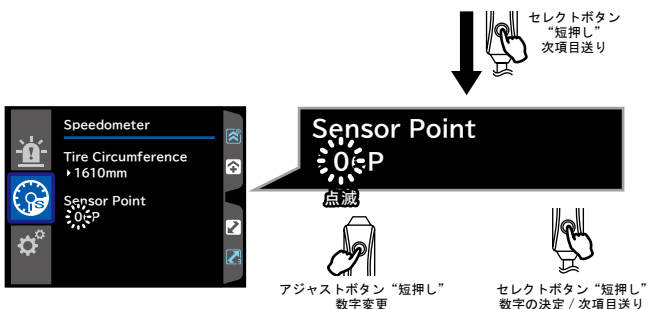
信号を拾うボルト数

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Speedometer”に合わせます。タイトルに“Speedometer”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Speedometer”（速度表示設定）に入ります。



機能設定画面に入ると、項目Tire Circumferenceに入り、1000の位が点滅します。ここで計算で出した“速度信号長さ”の数値を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次の位に移動します。最後に1の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次項目Sensor Point（信号数入力）に移動します。※入力はまだ確定していません。

設定範囲：300mm～2500mm 設定単位：1mm



Sensor Point（信号数入力画面）に入ると、10の位が点滅します。ここで、金属反応式速度センサーで反応させる“信号数”（信号を拾うボルト数）を入力します。点滅している10の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次は1の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後に1の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。更に設定画面でアジャストボタン“3秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。これで設定が確定されます。

設定範囲：01P～40P

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

■信号数について

フロントの場合、ブレーキディスクのボルト数、リアの場合、スプロケットのボルト数になります。付属の金属反応式速度センサーを各ボルトの適切な位置に確実に固定して頂く必要があります。下記金属反応式速度センサーの取付方法をご確認ください。

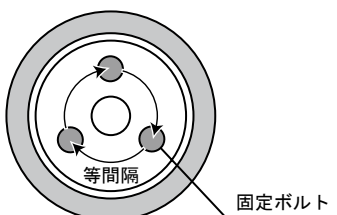
■センサーの取付け例（下詳細図）

- ①信号間隔は必ず等間隔になるようにして下さい。
変則間隔では正確な速度を表示出来ません。
- ②6角穴付きボルトで信号を拾う場合、ボルトの中心でセットして下さい。

■アドバイス

もし、丁度良い所にセンサー反応部が無い場合は、ワッシャの様な小さな鉄の破片をエポキシボンド等で貼り付け、反応部を作成して下さい。

金属反応式速度センサーにあるLEDランプの点灯・無点灯により、金属反応をご確認頂き、セット位置の微調整を行って下さい。※点灯・無点灯の数は信号数ではありません。メーターに入力する信号数はボルト数、または作成した反応部数を入力して下さい。



⑬ Gear (ギア設定)

13

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Gear”に合わせます。タイトルに“Gear”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Gear”(ギア設定)に入ります。

※ギアポジションの設定に関して

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。

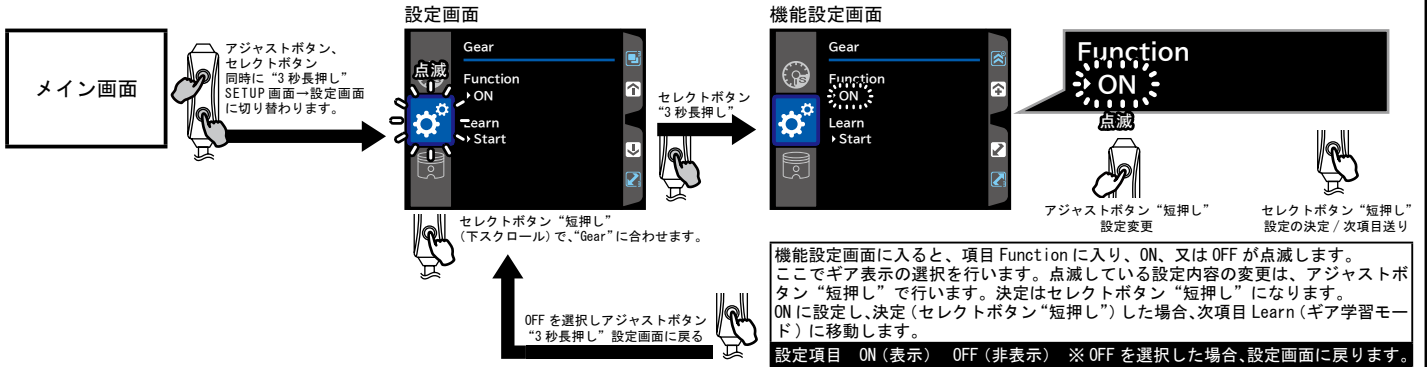
その為、“シャーンダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。

又、学習を行う際、必ず速度表示が設定されている状態で行う必要があります。

弊社は、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。

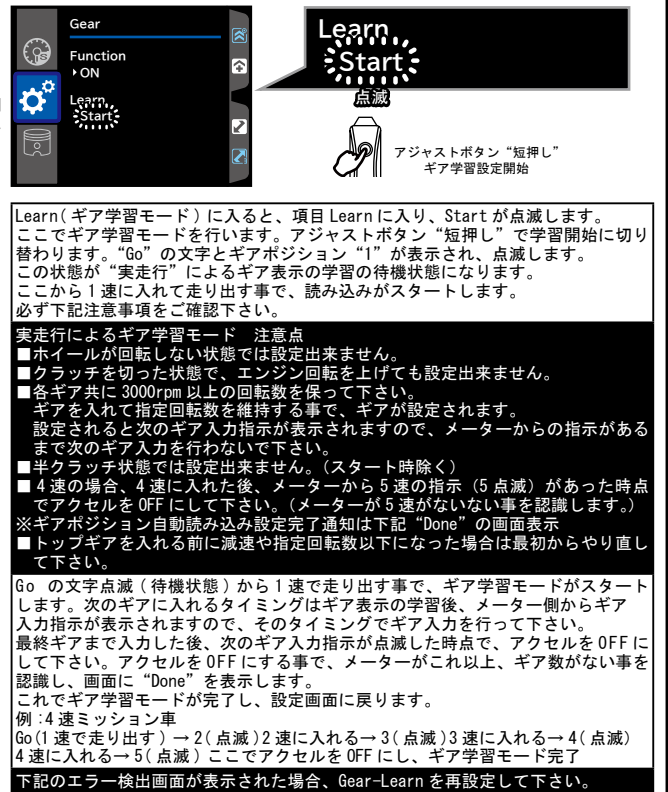
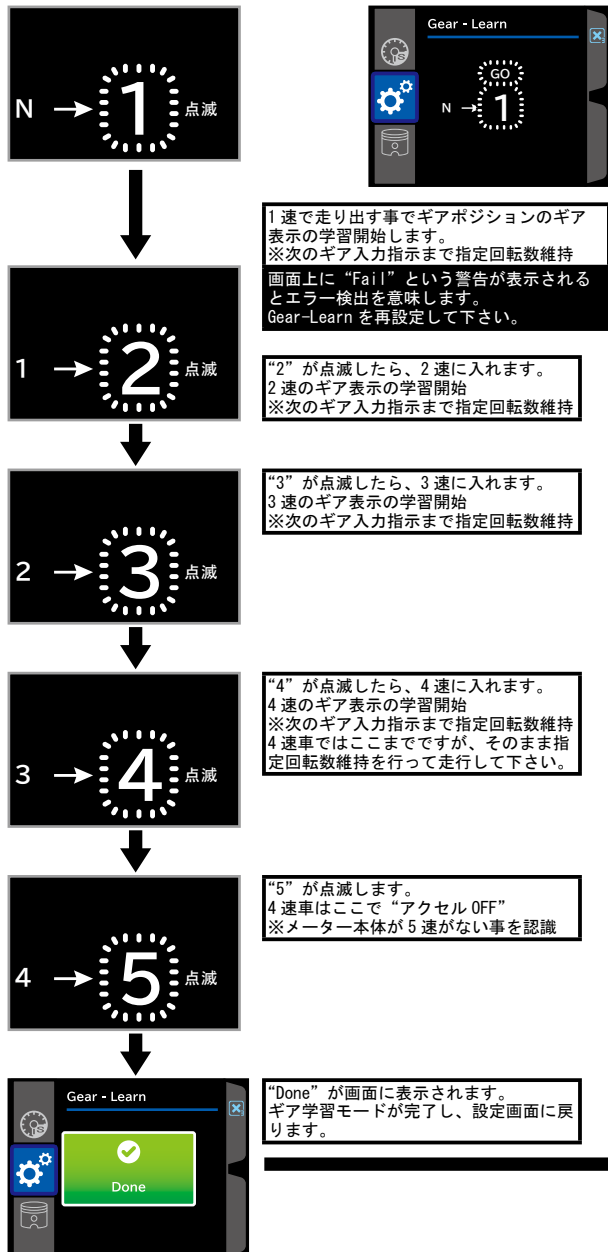
“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険の為、ギア表示の学習は行わないで下さい。

“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

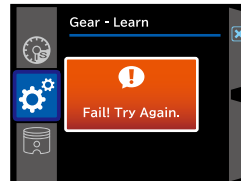


※ギア学習モードを設定する前に、必ずギアをニュートラルにして下さい。

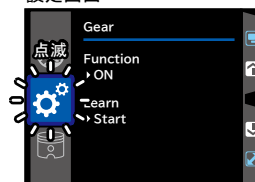
※ギアに入れるタイミングはメーター側から指示されます。ギア入力を指示される(ギア表示の学習後)まで指定回転数を維持して下さい。



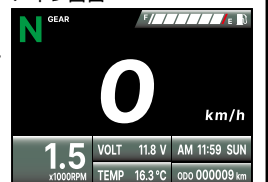
エラー検出画面表示



設定画面



メイン画面



⑭ RPM (タコメーター入力設定)

14

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“RPM”に合わせます。タイトルに“RPM”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“RPM”（タコメーター入力設定）に入ります。

タコメーターの信号入力を行います。車両に合わせて接続方法、RPM信号回数、種類を設定して下さい。下記“RPM信号入力”にある各種設定を参考にし、RPMコードの接続と信号回数の入力を行って下さい。

メイン画面

アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し” SETUP画面→設定画面に切り替わります。

設定画面

セレクトボタン“短押し”（下スクロール）で、“RPM”に合わせます。

機能設定画面

アジャストボタン“短押し” 数字変更
セレクトボタン“短押し” 数字の決定 / 次項目送り

タコメーター入力数	発火数
P0.5	2回転1発火
P1	1回転1発火
P2	1回転2発火
P3	1回転3発火
P4	1回転4発火
P5	1回転5発火
P24	1回転25発火

下記“RPM信号入力”を参考にRPMコードの接続し、信号回数を確定した後、タコメーター入力設定にて信号回数を入力します。機能設定画面に入ると、項目Pulseに入り、数字が点滅します。ここでRPM信号回数を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると、次項目Signalに移動します。RPM信号回数設定範囲：P0.5 P1～P24

メイン画面

アジャストボタン“3秒長押し”

設定画面

セレクトボタン“短押し” 次項目送り

機能設定画面

セレクトボタン“短押し” 数字の決定 / 次項目送り

機能設定画面に入ると、項目Signalに入り、“Hi-Act”、又は“Lo-Act”が点滅します。ここでRPM信号種類の選択を行います。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

RPM信号種類設定：Hi-Act Lo-Act

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

RPM信号入力

1. 悪影響を及ぼす社外部品を使わないで下さい。

- スパーク力を強くすると、それに伴って点火ノイズも増大します。イグニッションコイルやプラグコード、プラグキャップ、レーシングプラグ（抵抗無しタイプ）、社外CDI等の改造が大きな悪影響を及ぼす事があります。
- 点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。特にプラグコード表面の劣化＆水濡れには注意して下さい。

車両に合わせて接続方法、RPM信号回数、種類を設定して下さい。

RPM信号回数設定：クランクシャフト1回転あたりの信号回数の設定です。設定値が合っていないと、きっちり半分、2倍表示、3倍・・・となります。

RPM信号種類設定：接続方法に合った、読み込みプログラムの種類を選択します。切り替えにより、同じ接続方法でも正常動作する事があります。

2. 様子を確認しながら配線作業を行って下さい。

信号を拾う方法は複数あります。ご面倒でも、必ず推奨の方法から順に試して下さい。タコメーターが正常に動く範囲で可能な限り悪影響の低い（信号電圧が低い、ノイズが少ない）方法を見つけて下さい。

【A接続】【B接続】【C接続】RPM信号入力（3種類）※各接続方法の詳細につきましては、次ページ以降をご確認下さい。

【A接続】プラグコード表面 P24参照
【B接続】イグニッションコイル1次側 P24参照
【C接続】ピックアップパルスの読み込み P25参照

バイクの点火方式により、適した接続方法が異なります。

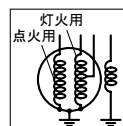
点火方式の見分け方

お客様のバイクの点火方式を知る事で、適した接続方法を見つけ易くなります。★：確実な条件
ポイント点火方式（本製品非対応）以外の点火方式は大きく3種類に分かれます。△：異なる場合がある。

C.D.I. 点火方式 バッテリーレス車や小排気量キャブレター車に多い。

基本構造	ステーターに点火用コイルがあり、その電力をCDIに蓄電し点火を行う。
見分け方	★ CDIにDC12V電源（キーON）が接続されていない。 ★ ステーターに点火用コイルがある（右図）。 △ フライホールの突起は1つである事がほとんど。
接続方法	【A接続】【B接続】【C接続】

12V モンキー（キャブ）系エンジン・エイブ（キャブ）系エンジン



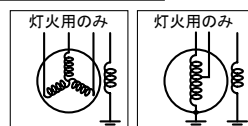
配線図の図形

点火用コイルについて
点火用コイルには0.1mm程度の極めて細い銅線が巻かれており、外周は耐熱シートで保護されている事が多い。0.8～1mm程度の銅線が巻かれているのは灯火用コイル。

DC-C.D.I. 点火方式 高年式の小排気量キャブレター車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。

基本構造	バッテリー電力を昇圧回路で高電圧化し、点火を行う。通称バッテリー点火。
見分け方	★ CDIにDC12V電源が接続されている。 ★ ステーターに点火用コイルが無い（右図）。 △ フライホールの突起は1つである事がほとんど。
接続方法	【A接続】【B接続】【C接続】

KSRI110・シグナスX（キャブ）・アドレスV125GK7以前 .etc

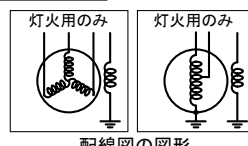


配線図の図形

フルトランジスタ点火方式 インジェクション車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。

基本構造	イグニッションコイルへのバッテリー電力の通電をトランジスタが制御し、点火を行う。
見分け方	★ イグニッションコイルにDC12V電源が接続されている。 ★ ステーターに点火用コイルが無い（右図）。 △ フライホールの突起が複数ある事が多い。
接続方法	【B接続】【C接続】

GROM・モンキー125（JB02）・スーパーカブCT125・モンキーF1・エイブF1・シグナスX F1・アドレスV125GK9以降 .etc



配線図の図形

14

RPM 信号入力 【A 接続】 配線方法

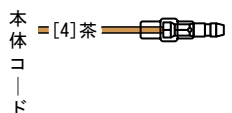
⑭ RPM 信号入力

C. D. I. 点火方式

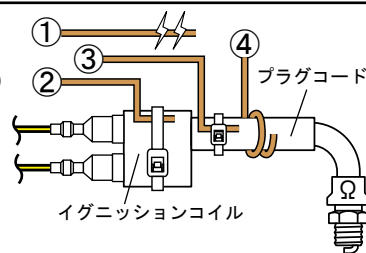
DC-C. D. I. 点火方式

点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。

【A 接続】



【A接続】



メーター本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM 信号回数設定：通常 1 か 2

RPM 信号種類設定：通常 Hi 不安定な場合、Lo を試して下さい。

小
↑
信
号
の
強
さ
↓
大

- ①付近のフレームやカウルなど車体側にコードを貼り付けるとアンテナ状態で読み取ります。
- ②イグニッションコイルボディー表面に 20mm 程度コードを沿わせてタイラップ等で固定。
- ③プラグコードに 20mm ~ 30mm 程度を沿わせてタイラップ等で固定。沿わず長さが長いほど信号が強くなります。
- ④プラグコードに巻き付け、発生した電気で信号を拾います。巻き付け回数を増やすほど信号が強くなります。

多くの場合、④の方法で 3 回転ほど巻き付けると、正しく読み取れます。

トラブルシューティング

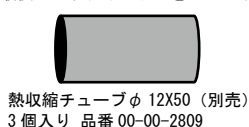
- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM 信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど 2 倍や半分の値を指します。
- 指針が全く上がらない、高回転側で指針が下がる。→ 信号が強くなる方法を試して下さい。
- 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 信号が弱くなる方法を試して下さい。

※調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。

RPM コード A を絶縁テープなどで仮止めし、軽い空吹かしにて作動確認を行って下さい。

⚠ 警告 RPM コードを仮止めた状態での“実走行”は危険ですのでお止め下さい。

- 【A 接続】の③や④で RPM 信号入力を採用した場合、別売の熱収縮チューブを使い仕上げて下さい。
- ・ プラグコードからプラグキャップを外します。
- ・ 熱収縮チューブを RPM コード A の上まで通し、ドライヤーなどで収縮させて下さい。(収縮温度：90℃以上、約 50%の内径まで収縮)
- ・ RPM コードが抜けないようにタイラップで上からしっかり止めて下さい。
- ・ 最後にプラグキャップをしっかり取り付けて下さい。



RPM 信号入力 【B 接続】 配線方法

C. D. I. 点火方式

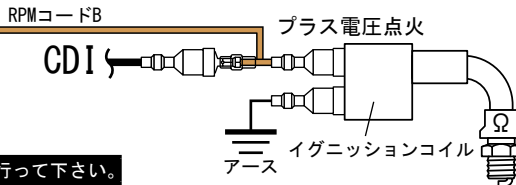
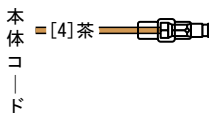
DC-C. D. I. 点火方式

フルトランジスタ点火方式

点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。
点火方式により、説明内容が異なります。

C. D. I. 点火方式

【B 接続】



作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。

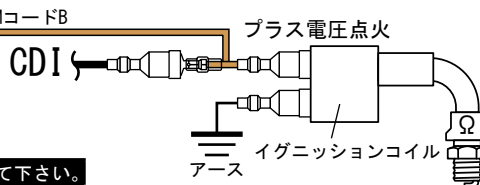
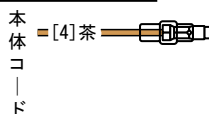
RPM 信号回数設定：通常 1 か 2

RPM 信号種類設定：Hi を試し、不安定な場合のみ Lo を試す。

※アース線が無い場合があります。
(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

DC-C. D. I. 点火方式

【B 接続】



作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。

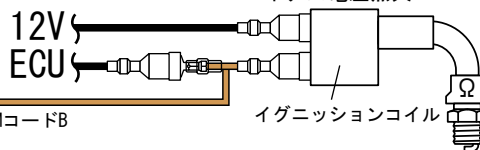
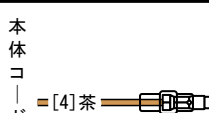
RPM 信号回数設定：通常 0.5 か 1 か 2

RPM 信号種類設定：Lo を試し、不安定な場合のみ Hi を試す。

※アース線が無い場合があります。
(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

フルトランジスタ点火方式

【B 接続】



作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM 信号回数設定：通常 0.5 か 1

RPM 信号種類設定：Hi

車種により読み取れない事例があります。

トラブルシューティング

- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM 信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど 2 倍や半分の値を指します。
- 指針が全く上がらない。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。
- 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

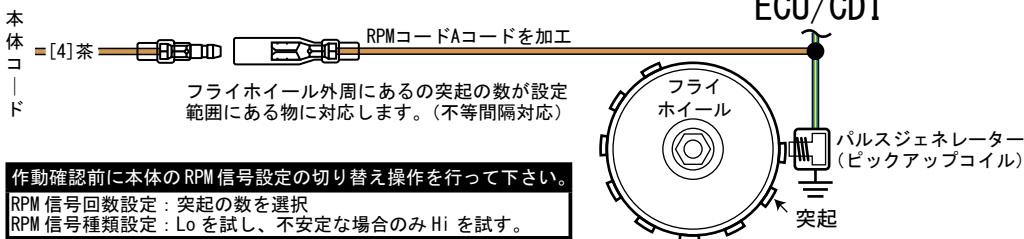
※調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。
■ タコメーターの針が途中で飛んでしまう。→ RPM コード B がイグニッションコイルに当たっている。

RPM 信号入力
【C 接続】
配線方法

C. D. I. 点火方式 DC-C. D. I. 点火方式 フルトランジスタ点火方式 点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。

接続作業の前にフライホイール外周にある突起の数がメーター本体の設定範囲かどうか確認して下さい。
設定範囲：0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、9、10、11、12、17、18、23、24

【C 接続】



RPM 信号回数設定の例



トラブルシューティング

- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM 信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど 2 倍や半分の値を指します。
- 指針が全く上がらない。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。
- 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

参考情報 よくご質問頂く車両についての作動方法をご紹介します。※この情報は接続方法を限定するものではありません。

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
12V モンキー	キャブレター	C. D. I.	A 接続 (A-④3 巻き)	1 - Hi
12V ゴリラ	キャブレター	C. D. I.	B 接続 (黒 / 黄コード)	1 - Hi
エイブ 50/100	キャブレター	C. D. I.	C 接続 (青 / 黄コード)	1 - Hi
XR50/100 Motard	キャブレター	C. D. I.		

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
モンキー (F1)	インジェクション	フルトランジスタ	A 接続 不可	
エイブ 50 (F1)	インジェクション	フルトランジスタ		
GROM ※1	インジェクション	フルトランジスタ	B 接続 (桃 / 青コード)	0.5 - Hi
モンキー 125 (JB02)	インジェクション	フルトランジスタ		
CT125 (JA45)	インジェクション	フルトランジスタ		
エイブ 50 タイプ D	インジェクション	フルトランジスタ	C 接続 (青 / 黄コード)	9 - Lo

※1 GROM 専用のサブコードを使用する場合、パルス線がサブコード内にあり、設定は「2 - Hi」になります。
表内に明記の B 接続は、汎用サブコードを使用する場合に限ります。

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
KSR110	キャブレター	DC-CDI	C 接続 (青 / 黄コード)	1 - Hi
シグナス X (F1)	インジェクション	フルトランジスタ	B 接続 (赤コード)	0.5 - Hi
アドレス V125 GK7	インジェクション	DC-CDI	A 接続 (A-④3 巻き)	0.5 - Hi
			B 接続 (黒 / 青コード)	0.5 - Lo
アドレス V125 GK9	インジェクション	フルトランジスタ	B 接続 (青コード)	0.5 - Hi

⑮ Fuel (燃料設定) 純正タンク等の抵抗値がわかる場合

15

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Fuel”に合わせます。タイトルに“Fuel”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Fuel”(燃料設定)に入ります。

メイン画面

設定画面

アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。

セレクトボタン“短押し”(下スクロール)で、“Fuel”に合わせます。

機能設定画面

セレクトボタン“3秒長押し”

アジャストボタン“短押し” 設定変更

セレクトボタン“短押し” 設定の決定 / 次項目送り

機能設定画面に入ると、項目Typeに入り、プリセットされた設定(抵抗値など)が点滅します。ここで抵抗値、又は燃料設定を選択します。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。抵抗値、又はOFFを設定し、決定(セレクトボタン“短押し”)した場合、設定画面に戻ります。Customを設定した場合、Fuel-Custom画面へ切り替わります。

プリセットされた抵抗値と燃料設定
100 Ω 250 Ω 270 Ω 390 Ω 510 Ω 1200 Ω SW Custom OFF

⚠️ ご確認下さい。
※燃料表示に問題がある場合、再度この抵抗値をご確認下さい。
※設定確定に関する注意点
抵抗値、又は燃料設定選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

Custom Manualでの設定

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Fuel”に合わせます。タイトルに“Fuel”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Fuel”(燃料設定)に入ります。

メイン画面

設定画面

アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。

セレクトボタン“短押し”(下スクロール)で、“Fuel”に合わせます。

機能設定画面

アジャストボタン“短押し” 設定変更

セレクトボタン“短押し” 設定の決定 / 次項目送り

■ “Custom”(ガソリンレベル ユーザー設定)

機能設定画面に入ると、項目Typeに入り、プリセットされた設定(抵抗値など)が点滅します。この状態で、アジャストボタン“短押し”を行い、Customに合わせてセレクトボタン“短押し”します。これにより、Fuel-Custom(ガソリンレベル ユーザー設定)の入力が可能になります。ユーザー設定では、対象車両のサービスマニュアルにて事前に抵抗値を把握して頂く必要があります。※ガソリン計センサーコードの接続が必要になります。

Full
▶ Manual 0010 Ω

アジャストボタン“短押し” 数字変更

セレクトボタン“短押し” 数字の決定 / 次項目送り

Fuel-Custom

セレクトボタン“短押し” 次項目送り

Empty
▶ Manual 0090 Ω

アジャストボタン“短押し” 数字変更

セレクトボタン“短押し” 数字の決定 / 次項目送り

Full(満タン)に移動すると前項目同様にセレクトボタン“短押し”を行う事で、AutoがManualになり、数値の1000の位が点滅します。ここで、燃料が満タンの状態の抵抗値を入力します。数字の変更はアジャストボタン“短押し”で行います。最後の1の位の入力が終わる、決定(セレクトボタン“短押し”)を行うと、設定画面に戻ります。

※設定確定に関する注意点
抵抗値、又は燃料設定選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

Fuel-Custom(ガソリンレベル ユーザー設定)画面に切り替わるとEmpty(空)の項目に入り、Autoが点滅します。ユーザー設定を行う場合、セレクトボタン“短押し”を行う事で、AutoがManualに変わり、数値の1000の位が点滅します。ここで、燃料が空の状態の抵抗値を入力します。数字の変更はアジャストボタン“短押し”で行います。最後の1の位の入力が終わる、決定(セレクトボタン“短押し”)を行うと、次項目のFull(満タン)に移動します。

設定画面

Customを選択しセレクトボタン“短押し” 次項目送り

機能設定画面

アジャストボタン“3秒長押し”

メイン画面

⑮ Fuel (燃料設定) Custom Auto での設定

15

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Fuel”に合わせます。タイトルに“Fuel”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Fuel”（燃料設定）に入ります。

■ “ガソリンレベル 抵抗自動検出設定”

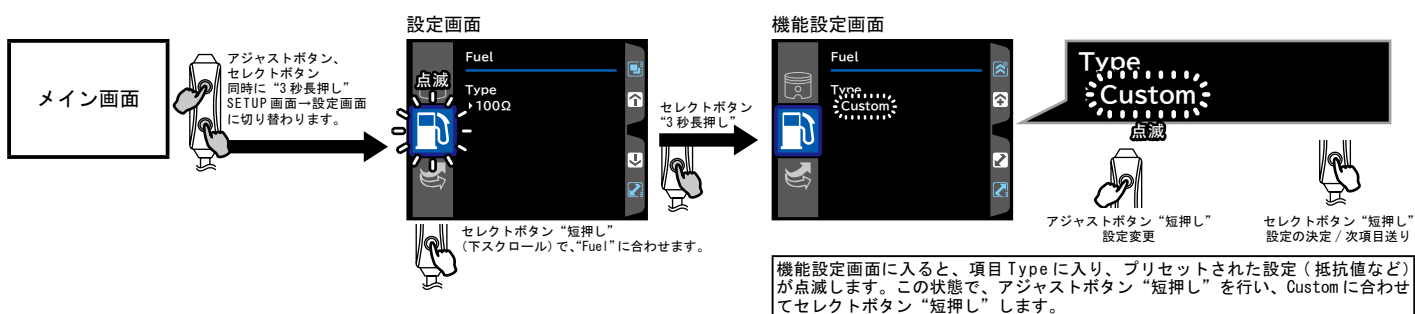


ご注意ください。
ガソリンレベル 抵抗自動検出設定は燃料タンクの容量の把握と設定時に必要となるトータル燃料の配分(%)作業が必要になります。又、燃料タンクに弊社製メーターが対応しているフューエルセンサー（純正）装着車である事が前提となります。
※カスタム燃料タンクには対応しない場合があります。

タンク内のガソリンの状態
最下位→



■車両のガソリンを少ない（最下位）状態にします。
※車両を静止させガソリンの油面が変化しない様に注意して下さい。



タンク内のガソリンの状態
最上位→



セレクトボタン“短押し”5回
次項目送り

数値は自動で変更されます。

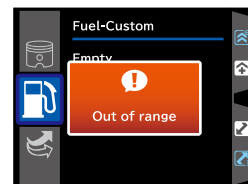


Fuel-Custom (ガソリンレベル ユーザー設定) 画面に切り替わると Empty (空) の項目に入り、Auto が点滅します。
ここで、ガソリンレベル抵抗自動検出設定を行います。

この時点での車両条件
※ガソリンが少ない（最下位）の状態になっている
仮にガソリンが少なくない場合は Full で自動検出出来ず、“Out of range” の表示が出ます。再度、タンク内を確認して下さい。
※ガソリン計センサーコードが接続されている
接続されていない場合、抵抗自動検出が実行されません。

抵抗自動検出設定を行う場合、Auto が点滅した状態で、アジャストボタン“短押し”を行うと自動で右側に抵抗値が表示されます。その後、セレクトボタン“短押し”を5回行い、次項目の Full (満タン) に移動します。

自動検出出来ない場合の画面表示↓



■車両のガソリンを満タン（最上位）状態にします。
※車両を静止させガソリンの油面が変化しない様に注意して下さい。

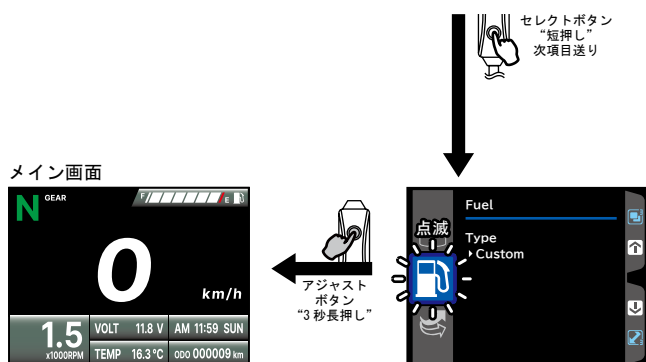


Full (満タン) に移動すると Auto が点滅します。前項目同様にアジャストボタン“短押し”を行う事で、自動で右側に抵抗値が表示されます。決定（セレクトボタン“短押し”）を行うと、設定画面に戻ります。

※設定確定に関する注意点

抵抗自動検出設定後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。

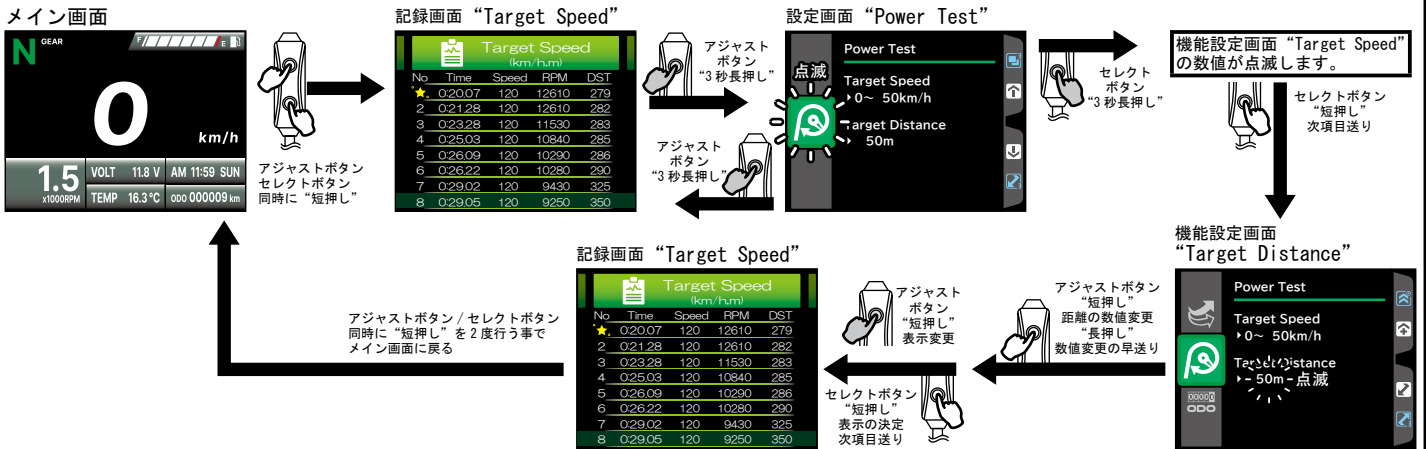
※上記作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。



目標距離テスト（指定距離までの時間と速度を測定）方法

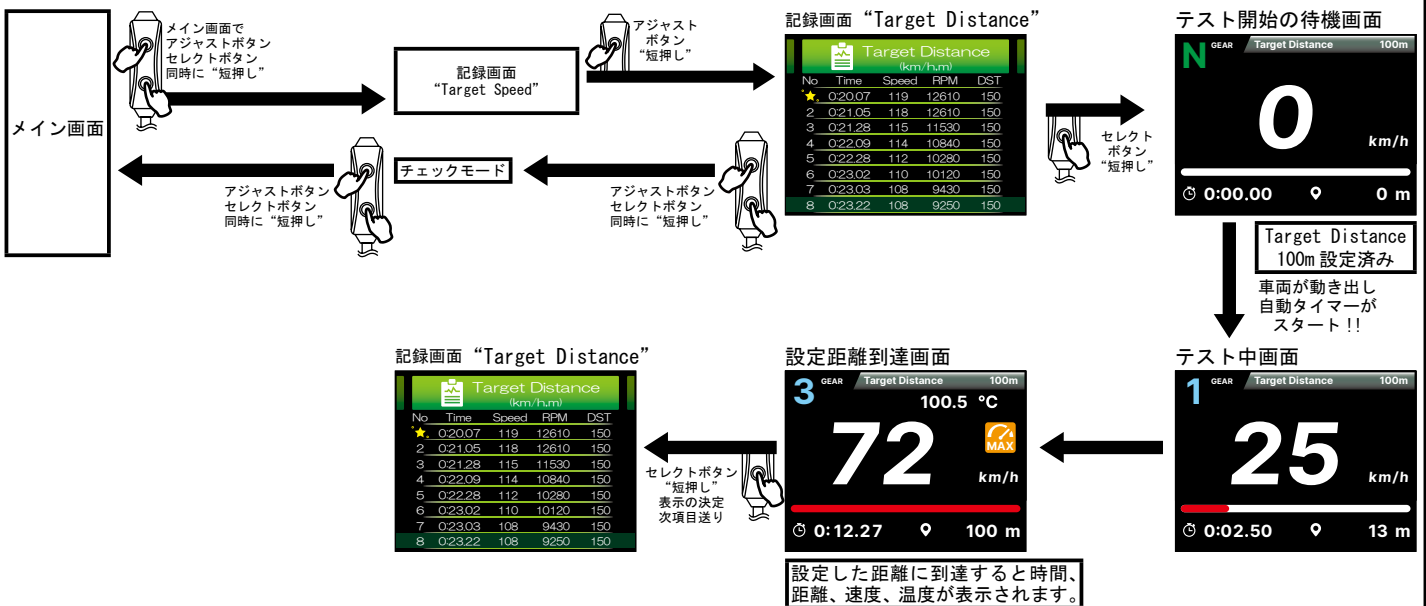
警告 目標距離テストは一般公道では使用しないで下さい。

- 目標距離テストを行う前に目標距離の設定が必要になります。 詳細は見出し番号⑦をご覧ください。
- 目標距離の設定方法 50～1500m 最小単位 50m
- メイン画面でアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”し、表示された記録画面“Target Speed”でアジャストボタンを“3秒長押し”する事で、SET UP画面（設定画面）“Power test”に切り替わります。ここでセレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面に入ります。“Target Speed”の数値が点滅しますので、セレクトボタン“短押し”を行い、次項目“Target Distance”へ移動します。“Target Distance”の指定距離の数字をアジャストボタン“短押し”で設定します。アジャストボタン“長押し”で数字変更を早送り出来ます。決定はセレクトボタン“短押し”になります。
- 決定はセレクトボタン“短押し”後、アジャストボタンを“3秒長押し”し、記録画面“Target Speed”に戻ります。
- 記録画面“Target Speed”からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を2度行う事で、メイン画面へ戻ります。



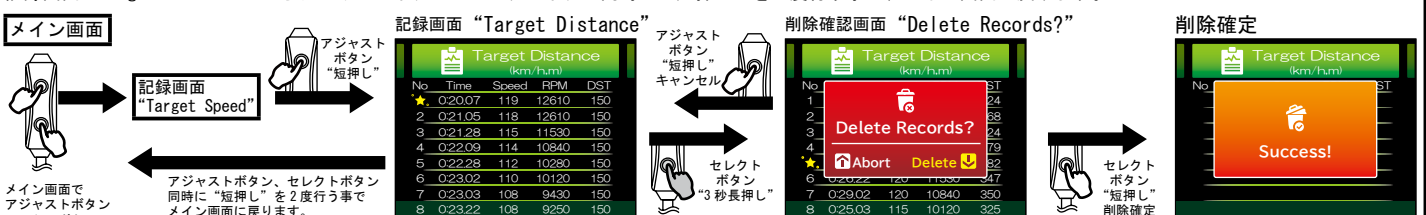
目標距離テスト測定の開始・終了方法

- 目標速度テストを行う場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面の“Target Speed”へ切り替えます。
- “Target Speed”画面でアジャストボタンを“短押し”する事で“Target Distance”（目標距離）へ移動します。ここでセレクトボタンを“短押し”する事で、テスト画面へ切り替わります。テスト画面はテスト開始の待機状態となり、車両が動くと自動的にタイマーがスタートします。
- 車両の走行を開始し、設定した距離に到達すると時間、距離、速度、温度が表示されます。
- 記録画面“Target Distance”からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を2度行う事で、メイン画面へ戻ります。
- 自動タイマーについて：車両が動き始める（タイヤが回り出す）と自動で計測し始め、車両を止めると自動的に計測が終了します。



目標距離テスト測定の記録管理

- 目標速度テスト記録は、機能設定画面で設定された“Best（良結果順）”で表示されます。ベスト記録はNo. 部分に★（星マーク）を表示。
- 目標速度テスト記録の削除方法 ※削除を行うと、目標距離テスト記録すべてのデータが削除されます。ご注意ください。
- テスト記録の削除を行う場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面“Target Speed”へ切り替えます。
- 記録画面“Target Distance”の状態、セレクトボタン“3秒長押し”を行うと“Delete Records”（記録を削除しますか？）が表示されますので、削除する場合、セレクトボタン“短押し”し、Delete（削除）を選択する事で、Target Speedの記録データがすべて削除されます。
- 削除しない場合はアジャストボタン“短押し”し、Abort（キャンセル）を選択し、記録画面“Target Distance”へ戻ります。
- 記録画面“Target Distance”からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を2度行う事で、メイン画面へ戻ります。

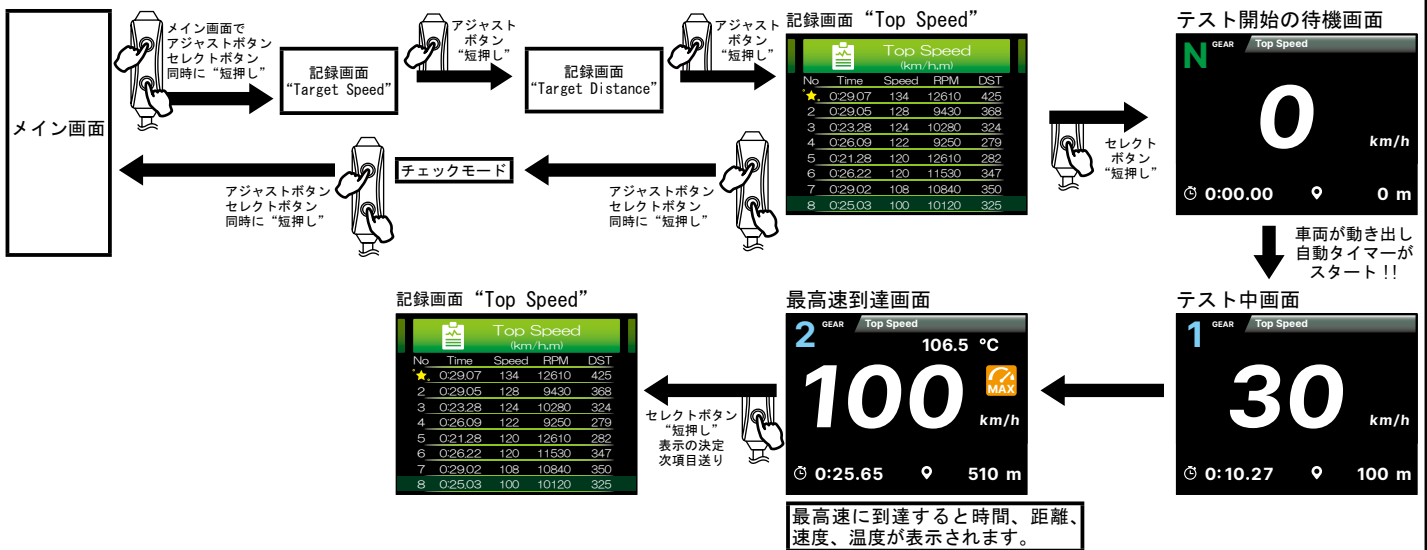


最高速テスト（最高速度を測定）方法

警告 最高速テストは一般公道では使用しないでください。

最高速テスト測定の開始・終了方法

- 最高速テストを行う場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面の“Target Speed”へ切り替えます。“Target Speed”画面でアジャストボタン“短押し”を2度行う事で“Top Speed”（最高速）へ移動します。ここでセレクトボタンを“短押し”する事で、テスト画面へ切り替わります。テスト画面はテスト開始の待機状態となり、車両が動くとき自動的にタイマーがスタートします。車両の走行を開始し、最高速（アクセル OFF）に到達すると時間、距離、速度、温度が表示されます。記録画面“Target Speed”からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を2度行う事で、メイン画面へ戻ります。
- 自動タイマーについて：車両が動き始める（タイヤが回り出す）と自動で計測し始め、車両を止めると自動的に計測が終了します。



最高速テスト測定の記録管理

- 最高速テスト記録は、機能設定画面で設定された“Best（良結果順）”で表示されます。ベスト記録はNo. 部分に★（星マーク）を表示。
- 最高速テスト記録の削除方法 ※削除を行うと、最高速テスト記録すべてのデータが削除されます。ご注意ください。
- 最高速テストの削除を行う場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面“Target Speed”へ切り替えます。“Target Speed”画面でアジャストボタン“短押し”を2度行う事で“Top Speed”（最高速）へ移動します。記録画面“Top Speed”の状態では、セレクトボタン“3秒長押し”を行うと“Delete Records”（記録を削除しますか？）が表示されますので、削除する場合、セレクトボタン“短押し”し、Delete（削除）を選択する事で、Target Speedの記録データがすべて削除されます。削除しない場合はアジャストボタン“短押し”し、Abort（キャンセル）を選択し、記録画面“Target Speed”へ戻ります。記録画面“Target Speed”からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を2度行う事で、メイン画面へ戻ります。



チェックモード（最高速度、最高回転数、最高温度の確認）

警告 走行中は危険な為、チェックモードを使用しないで下さい。

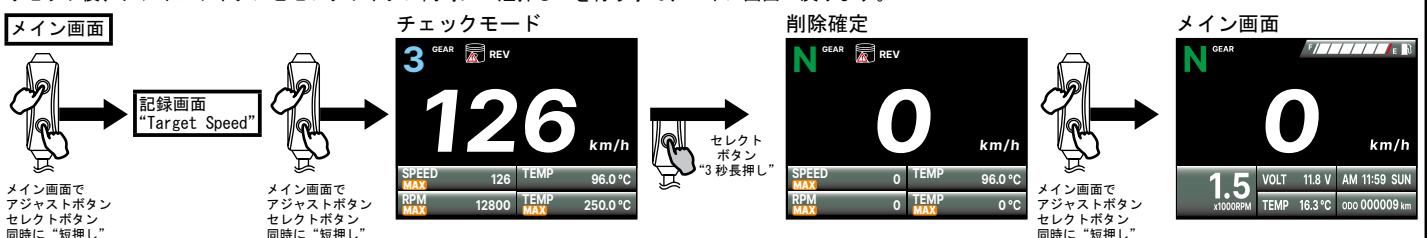
チェックモードの確認方法

- チェックモードを確認する場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面の“Target Speed”へ切り替えます。“Target Speed”画面で再度、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”する事で、“チェックモード”に切り替わります。チェックモードでは最高速度、最高回転数、最高温度が表示されます。チェックモード確認後、アジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行う事で、メイン画面へ戻ります。



チェックモードのリセット方法

- ※リセットを行うと、チェックモードデータがすべて削除されます。ご注意ください。
- チェックモードのリセットを行う場合、メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行い、記録画面“Target Speed”へ切り替えます。“Target Speed”画面で再度、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”を行う事で、“チェックモード”に切り替わります。“チェックモード”の状態では、セレクトボタン“3秒長押し”を行うとチェックモードデータがリセットされます。リセット後、アジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”を行う事で、メイン画面へ戻ります。



⑩ A/F Ratio(空燃比計設定)

16

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“A/F Ratio”に合わせます。タイトルに“A/F Ratio”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“A/F Ratio”(空燃比計設定)に入ります。

※別途 SP 武川製 A/F センサー、O₂ センサーボスが必要になります。

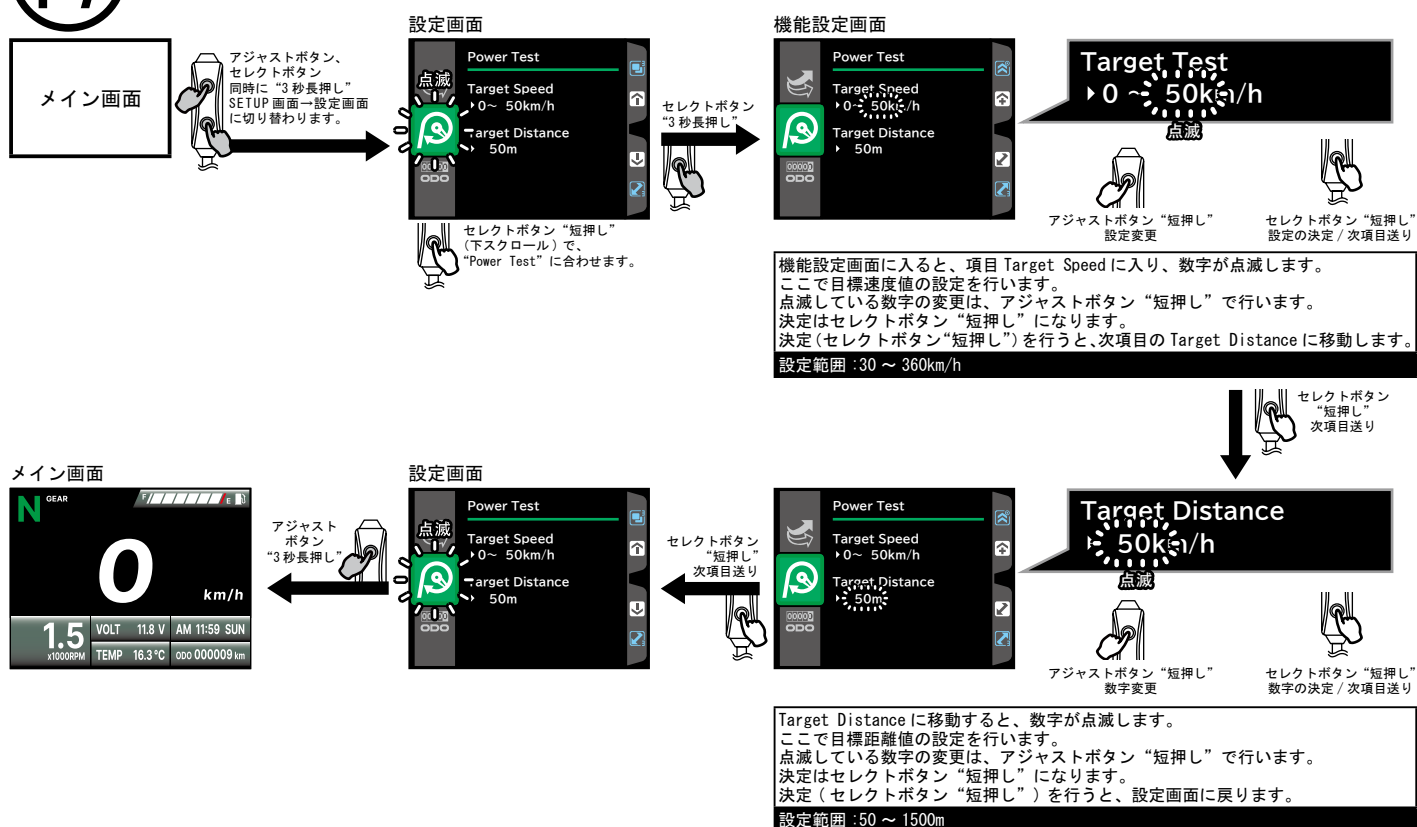
※ O₂ センサーボスの取付け方法: エキゾーストパイプに穴開け加工を行い、O₂ センサーボスを溶接加工にて固定する必要があります。



⑪ Power Test(パワーテスト設定)

17

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Power Teat”に合わせます。タイトルに“Power Teat”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Power Teat”(パワーテスト設定)に入ります。



記録画面は、メイン画面でアジャストボタンとセレクトボタン同時に“短押し”する事で、表示されます。各記録画面“Target Speed”“Target Distance”“Top Speed”は、アジャストボタン“短押し”で画面の切り替えが行えます。

18 ODO (走行距離設定)

18

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“ODO”に合わせます。タイトルに“ODO”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“ODO”（走行距離設定）に入ります。

メイン画面

アジャストボタン、セレクトボタン同時に“3秒長押し”SETUP画面→設定画面に切り替わります。

設定画面

セレクトボタン“短押し”（下スクロール）で、“ODO”に合わせます。

設定画面 ODO に入ると、項目 Total で当メーター装着後の走行距離を確認できます。

ご注意下さい。
トータル走行距離（オドメーター）の表示は消したり、調整する事は出来ません。表示範囲：0～999999km
セレクトボタン“3秒長押し”を行うと、機能設定画面に入ります。

メイン画面

アジャストボタン“3秒長押し”

設定画面

セレクトボタン“短押し” 次項目送り

機能設定画面

セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面 ODO に入ります。ここではユーザーの走行距離（希望する距離）を入力します。

ユーザーの走行距離入力について

ご注意下さい。
トータル走行距離（オドメーター）の表示は消したり、調整する事は出来ません。ここではユーザーで表示したい距離を入力し、それに加算した距離を確認出来る様、設定する事が出来ます。

機能設定画面に入ると、項目 Set に入り、100000の位が点滅します。ここではユーザーの走行距離（希望する距離）を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、次の位に移動します。最後の1の位を決定（セレクトボタン“短押し”）すると設定完了となり、設定画面に戻ります。

表示範囲：0～999999km
走行する事で入力した走行距離に自動で加算されます。

トラブルシューティング

■下記のような症状の場合はメーターの故障ではありません。修理に出す前にご確認ください。

電源は入っているのにメーターが動かない。	■メーターに電気が来ない。 →配線が確実に繋がっているか確認して下さい。又、配線やヒューズが切れていないか確認して下さい。 →メーター電源にはDC12Vが必要です。バッテリーが古かったり、故障していたりすると機能しません。 ■ノーマルメーターは電源が入るがTFTメーターの場合のみ電源が入らない。 →バックアップのヒューズが切れている可能性があります。
メーターに間違った情報が表示される。	■バッテリー電圧をチェックし、電圧がDC12Vを超えている事を確認して下さい。
スピードメーターが表示されない、又は正しく表示されない。	■スピードセンサーの接続不良の可能性があります。 →スピードセンサーが正しく接続されているか確認して下さい。 ■スピードメーターの設定を再度、確認して下さい。
タコメーターが表示されない、又は正しく表示されない。	■RPMコードが正しく接続されている事を確認して下さい。 ■スパークプラグがR（レジスター）タイプかどうか確認して下さい。 ■RPMの設定を再度、確認して下さい。
温度計が表示されない、又は正しく表示されない。	■温度センサーが正しく接続されているか確認して下さい。それでも表示しない場合、温度センサーの故障等が考えられます。 ■温度計の設定を再度、確認して下さい。 ■メーターハーネスに空燃比計のO₂センサー/センサーコードが接続されていないか確認して下さい。 ■メーターの空燃比計設定がON（表示）になっていないか確認して下さい。 ONにすると自動で温度計がOFF（非表示）になります。
空燃比計が表示されない、又は正しく表示されない。	■O₂センサー/センサーコードが正しく接続されている事を確認して下さい。 ■空燃比計設定を再度、確認して下さい。 ■温度センサーが接続している場合、表示は17.5の表示のままです。O₂センサーに接続し直して再度確認して下さい。 ■断線又はO₂センサーが故障している場合、キーONした状態で少しメーターの表示を確認します。 数分後に表示がA/F---の表示が出る場合は配線が断線しているか接続されていないか、O₂センサーが故障している可能性があります。
燃料計が表示されない、又はエラーが表示される。	■燃料タンクを点検して下さい。 ■ハーネスの接触不良の可能性があります。→配線が正しく接続されているか確認して下さい。 ■燃料計の設定を再度、確認して下さい。
時計がおかしい。	■時計の設定を再度、確認して下さい。 ■電源線が逆になっていないか確認して下さい。 →プラス線（赤）がバッテリー（DC12V）に接続し、キーON電源のプラス線（黒）がメインスイッチ（DC12V）に接続している事を確認して下さい。
メーターインジケーターが表示されない。	■ハーネスの接触不良の可能性があります。→配線が正しく接続されているか確認して下さい。
シフトインジケーターの反応が遅い。	■速度設定に間違いがないか確認を行い、再度ギアポジションの設定を行って下さい。 ■ギアポジション設定後にフロントスプロケット又はリアスプロケットの丁数を変更した。 →再度設定し直して下さい。
キーOFF時メーターインジケーターが点灯する。	■キーOFF時にメーターの各インジケーターランプが一瞬点灯する場合がありますが異常ではありません。
バックライト設定をAUTO設定の場合に、照明が頻繁に切り替わる。	■Auto設定にセットしている場合、朝昼の明るい時間帯であっても影（街路樹、高架下）がある場合、表示がDayからNightに切り替わります。故障している訳ではありません。

※確認後に症状が続くようなら販売店にお問合せ下さい。

©この取扱説明書は弊社ホームページにPDFデータでアップしております。

印刷では表記が読みにくい等ございましたら弊社ホームページにてダウンロードしご確認ください。



メーターステー & ハーネスキット（スーパーマルチ TFT メーター用）取扱説明書

製品番号 05-06-0030



Here is english manual.

Can be view the pdf data of instruction English manual by scanning the TWO-DIMENSIONAL CODE.

適応車種	モンキー 125	(JB02-1000001 ~)
		(JB03-1000001 ~)
		(JB05-1000001 ~)
	モンキー 125 (タイモデル) (MLHJB02)	

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
- ◎製品には、エッジや突起がある場合があります。必ず作業手袋を着用し作業を行って下さい。
(説明書内で作業手袋未着用の写真がある場合でも、作業時は作業手袋等を着用して下さい。)
- ◎当製品をお手入れする際には、ガソリンやシンナー等を使用しないで下さい。ラバーや樹脂部品の劣化の恐れがあります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーターを対象車両に装着する為の専用ステーキットになります。
ステーキットに付属されるサブハーネスや小部品も対象車両専用用品になります。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーター以外のメーターには取り付け出来ません。ご注意下さい。
- ◎製品プログラムは予告無く変更・改良される場合があります。
- ◎同一の製品番号であっても製造時期により、動作や画面が多少異なる可能性があります。予めご了承下さい。
- ◎アプリ等の GPS と多少、速度差が出る場合があります。
- ◎車両により、スプロケット交換時、メーターの速度表示設定を変更しても、ABS 等のエラーコードを消す事は出来ません。

～特徴～

キットにある専用ステー、専用サブハーネスを使用する事で、スーパーマルチ TFT メーターをモンキー 125 に装着する事が出来ます。
メーター固定部にはメーターへの振動を和らげるラバースタンプを採用。
純正メーターから当製品に変更する事で、速度、オド / トリップメーターに加え、回転数、ギアポジション、温度計、バッテリー電圧表示やタイヤ外径補正、パワーテスト機能等、非常に多くの機能を搭載する事が出来ます。外部スイッチにより、表示の切り替えや機能の設定が行えます。
メーターにはスティック温度センサーが付属している為、SP 武川製マグネット付きドレンボルトを装着する事で、ドレンボルト部での温度測定が可能になります。

注意 スーパーマルチ TFT メーター装着に関しての注意事項

H. I. D. や他社製 LED ヘッドライト、フォグランプ類との同時装着は出来ません。バラスト / インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因になります。

注意 ギアポジションの設定に関しての注意事項

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。
その為、“シャーンダイナモやフリーローラー” 又は“実走行” によるギア表示の学習が必要になります。
弊社では、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー” によるギア表示の学習を推奨します。
“実走行” で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険な為、ギア表示の学習は行わないで下さい。
“実走行” で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、作業手袋等を着用し手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落の原因となります。）

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（事故につながる恐れがあります。）
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）
- 走行中はスイッチ操作を行わないで下さい。（事故につながる恐れがあります。）

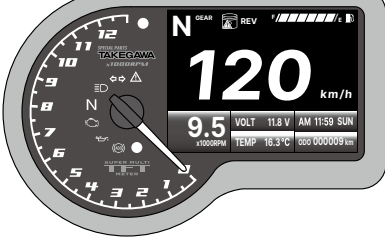
- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1 ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

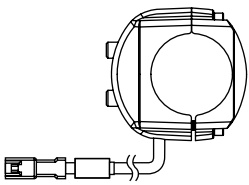
〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

キット内容

①メーター本体



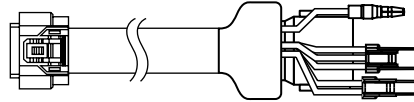
②メーター外部スイッチ



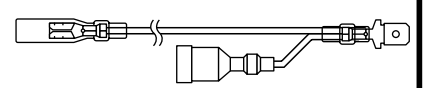
③ラバーストリップ



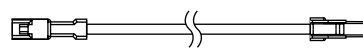
④サブハーネス



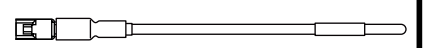
⑤ RPM コード B (550mm)



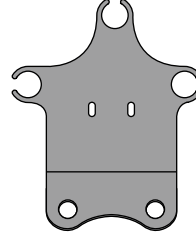
⑥温度センサー連結コード* (900mm)



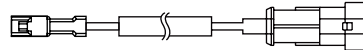
⑦スティック温度センサー (～250℃)



⑨メータースター



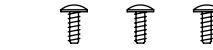
⑧ O₂ センサー連結コード (1200mm)



⑩クッションラバー



⑪タッピングスクリュー (M4x12)



⑫大径ワッシャー M4 用 (4x14x1)



⑬結束バンド 300mm



■スーパーマルチ TFT メーター構成部品

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	—	—
2	メーター外部スイッチ	1	00-05-0380	1
3	ラバーストリップ	1		1

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご注文下さい。
品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。
※リペアパーツはキット内容と若干、形状等異なる場合があります。
使用につきましても問題ございません。予めご了承下さい。
※⑩クッションラバーは⑨メータースターに取り付けてあります。
※⑧ O₂ センサー連結コードのリペア品は、キット付属の物と異なり、非防水の仕様になります。ご了承下さい。

■ステーキット構成部品 (05-06-0030)

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
4	サブハーネス	1	00-05-0216	1
5	RPM コード B (550mm) IG 接続用	1	00-05-0371	1
6	温度センサー連結コード (900mm)	1	07-04-0556	1
7	スティック温度センサー (250℃)	1	07-04-0555	1
8	O ₂ センサー連結コード (1200mm)	1	00-05-0201 (非防水 / 2.0m)	1
9	メータースター	1	—	—
10	クッションラバー	3	—	—
11	タッピングスクリュー (M4x12)	3	—	—
12	大径ワッシャー M4 用 (4x14x1)	3	—	—
13	結束バンド 300mm	2	—	—

メーター本体の取り付け 下の組み立て図を参照の上、車体へ固定して下さい。



警告

取り付けを誤ると、ボルト及びナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。

■メーター本体とメータースターの固定方法

図 1

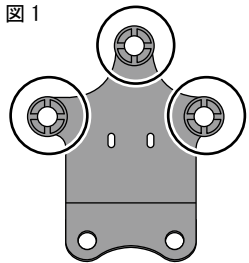
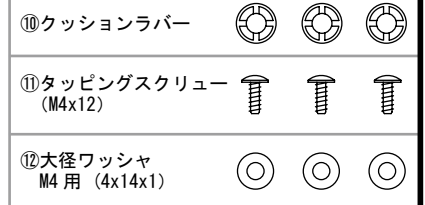
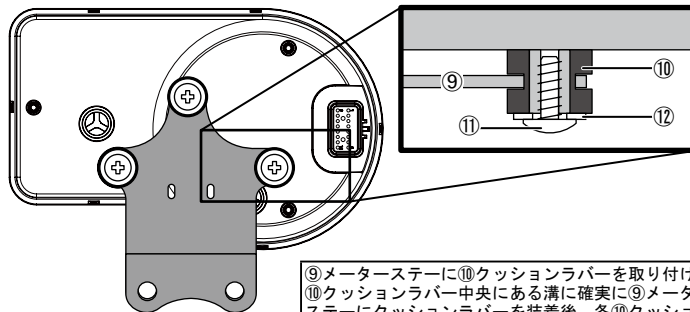


図 2

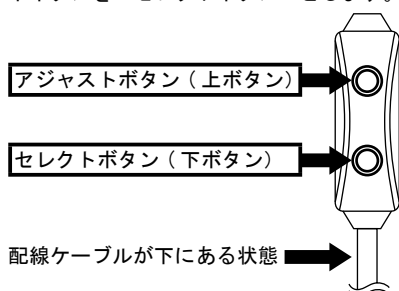


⑨メータースターに⑩クッションラバーを取り付けます。
⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑨メータースターを取り付けてあるか確認します。(図 1)
スターにクッションラバーを装着後、各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。
メーター本体のボスに⑫大径ワッシャー M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。
(図 2) をご覧頂き、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。

⚠ 注意：タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。

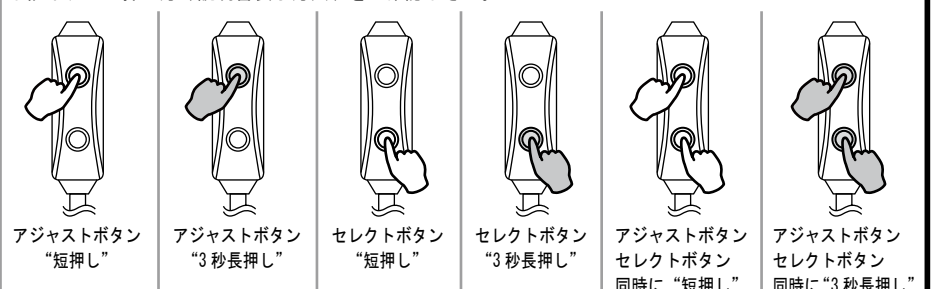
メーター外部スイッチ詳細

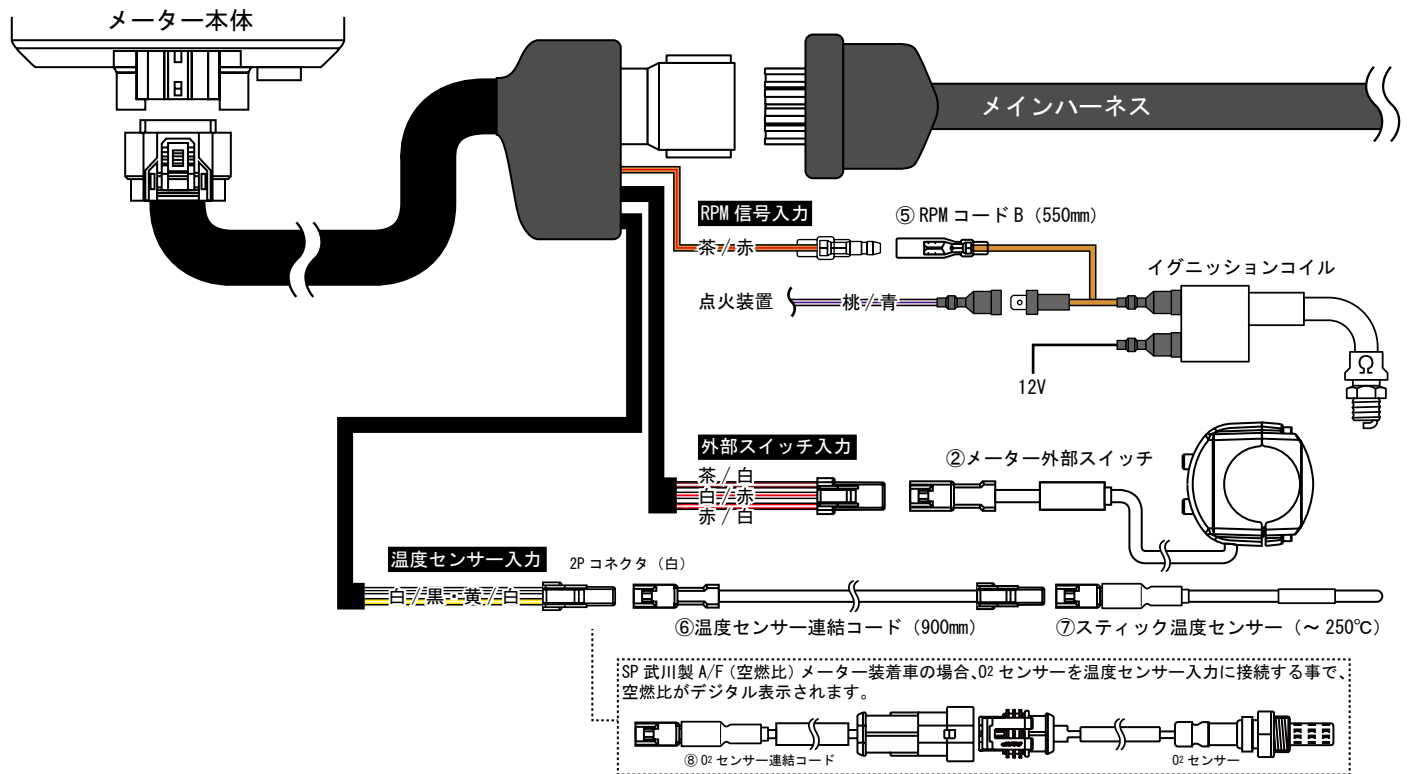
メーター外部スイッチは、下イラストのように配線ケーブルが下にある状態で取り付けして下さい。
下イラストの取り付け状態とし、上ボタンを“アジャストボタン”、下ボタンを“セレクトボタン”とします。



メーター外部スイッチの操作方法

メーター外部スイッチの操作は、アジャストボタン（上ボタン）“短押し”“3 秒長押し”、セレクトボタン（下ボタン）“短押し”“3 秒長押し”、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に“短押し”“3 秒長押し”の各種押し方により、機能設定や表示切り替えを行います。
下記ボタンの押し方（説明書表示方法）をご確認下さい。





⑤ RPM コード B は、イグニッションコイル本体に接触しない様にハーネスの取り回しを行って下さい。表示が不安定になる恐れがあります。

温度センサー入力について

温度センサー連結コード、温度センサーの接続

- 温度計の測定範囲は0 ~ 250℃です。
- 油温計測を行うには、別途オプションパーツのアダプターが必要です。
- 弊社カタログにてオプションパーツをご覧ください。
- 温度センサーを適当な位置に固定し、外気温計としての使用も可能です。

ステアリング作動による干渉や走行振動による擦れ、エンジン高温部への接触などで損傷、断線しないように配線テープやタイラップを使いフレームや車体ハーネスに配線を固定して下さい。

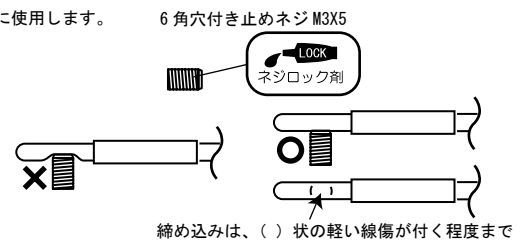
センサー未接続（配線が断線）時は数値が「- - - . -℃」となります。



別売オプションパーツのドレンボルトやアダプターに付属の止めネジは、スティック温度センサーを固定する際に使用します。脱落防止の為に止めネジにネジロック剤を少量付け、センサーに軽く線傷が付く程度で締め込みを止めて下さい。

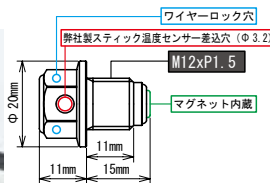
破損するとコードの断線又は短絡（ショート）と同じ状態になります。
断線時の表示：「- - - . -℃」
短絡時の表示：「250.0℃」

注意 止めネジの締めすぎでセンサー部が大きく変形すると、内部の電子部品が損傷してしまう可能性があります。



温度計オプションパーツ

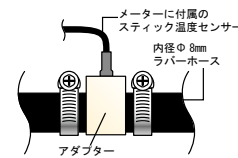
- マグネット付きドレンボルト (M12xP1.5) モンキー 125 適合



エンジンオイルに混ざった鉄粉をドレンボルトに設けたマグネットが強力な磁力で吸着します。これにより、オイル内にある鉄粉が減少し、エンジンオイル本来の安定した潤滑性能を発揮する事が可能となります。更に弊社製アルミドレンボルトには、脱落防止としてワイヤロックが行えるワイヤロック穴と弊社製スティック温度センサー差込穴を備えております。スティック温度センサーをドレンボルトに取り付けし、弊社製スーパーマルチ TFT メーターに接続する事でドレンボルト部での温度を計測する事が出来ます。ドレンボルト本体はアルミ材を精巧に削り出し、表面にカラーアルマイトを施しています。カラーはシルバー、ブラック、ブルー、レッドの4種類。弊社ロゴレーザーマーキング入り、マグネットには磁力が強力なネオジムマグネットを採用。■マグネットは「カシメ」でしっかりと固定■純正ドレンボルトと交換してご使用頂けます。

■油温計用アダプター

- モンキー 125 弊社製オイルクーラーキット（ラバーホース）装着車 適合



ラバーホース（内径Φ 8mm）採用のオイルクーラーキット装着車を対象とするスティック温度センサー差込穴付きアダプターです。オイル取り出し口とオイルクーラーをつなぐ、ラバーホースの間にこのアダプターを装着する事で、オイルライン（アダプター部）での温度を計測する事が出来ます。温度センサーはオイルと非接触の為、アダプター部での温度となりますが、オイル温度の目安としてご覧頂けます。当製品に付属のスティック温度センサーを接続する事で、温度をメーター内の液晶画面でご確認頂けます。

製品名	品番
ドレンボルト（マグネット付き）：M12 P1.5	シルバー 02-09-0022 ブルー 02-09-0024 ブラック 02-09-0023 レッド 02-09-0025
M12 シーリングワッシャー	00-00-0140
内径φ 8mm オイルクーラーホースアダプター	07-04-0521

▲注意

走行距離を引き継ぐ場合は純正メーターを取り外す前に走行距離をメモなどに記録しておいて下さい。

メーター本体とメーターステの固定方法につきましては、説明書 P2 でもご覧頂けます。

■純正スピードメーターの取外し作業

ヘッドライトユニット下部のボルト 2 本を取り外します。



ヘッドライトユニットを下部から分離させ上部の爪を外します。



ヘッドライトユニットの接続を外します。



ヘッドライトケースを止めているヘッドライトステー部のボルト 2 本を取り外します。



ヘッドライトケース内のボルト 1 本を取り外します。



ヘッドライトケースを移動させ、純正メーターカバー取り付けボルト、カバー、カブラーを取り外します。

▲注意
ヘッドライトケースを移動する際は、ハーネスに無理な力が掛からない様に注意して下さい。



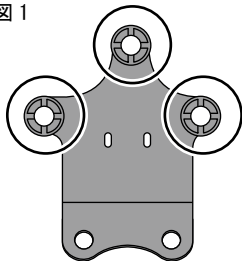
純正メーター取り付けボルト 2 本を取り外し、純正メーターを取り外します。



■メーター本体とメーターステの固定方法

⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑨メーターステが取り付けられているか確認します。(図 1)

図 1



ステにクッションラバーを装着後、各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。メーター本体のボスに⑫大径ワッシャー M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。(図 2) をご覧頂き、部品の取付け位置や順番をご確認下さい。

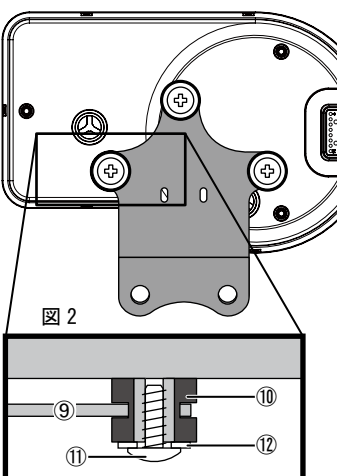
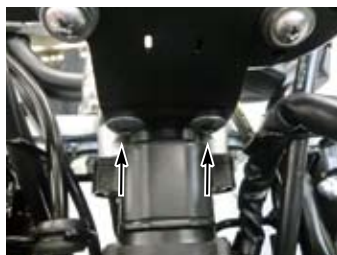


図 2

▲注意
タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。

純正ボルト 2 本を用いてメーターステを取り付けます。



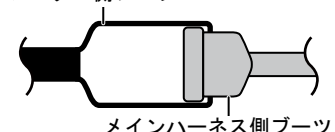
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
純正ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

■サブコードへの接続作業

⑤ RPM コード B、②外部スイッチ、⑦スティック温度センサーを説明書 P3 の配線概要を参考に接続作業を行って下さい。
⑤ RPM コード B はイグニッションコイル本体に接触しない様にハーネスの取り回しを行って下さい。タコメーターの針が不安定になる恐れがあります。最後にメインハーネスとメーターハーネスのコネクターを差し込みます。写真のようにメインハーネスのブーツがメーターハーネス側のブーツに確実に入るように差し込みます。

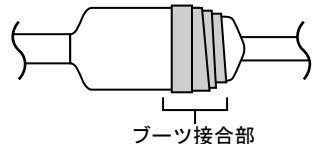


メーター側ブーツ



メインハーネス側ブーツ

▲注意
防水性を高める為、ブーツの接合部分を覆うように、市販の配線テープを巻き付けて下さい。

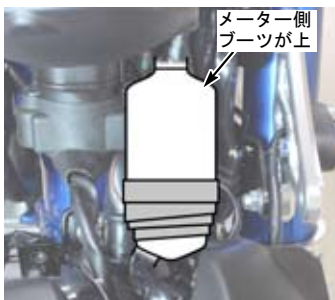


ブーツ接合部

配線テープ巻き付けによる防水処理

※テーピング及びブーツカバーの方向を無視した場合、ブーツカバー内に水が入り、メーターが破損する恐れがあります。

メインハーネスとメーターハーネスの取り回しを行い、下記イメージ図を参考にメーター側ブーツが上になる様にして下さい。
温度センサー、スイッチ、パルスコードも必ず下側に向かって配線の取り直しを行って下さい。



メーター側
ブーツが上

ヘッドライトケース、ヘッドライトユニットを逆手順で取り付けます。

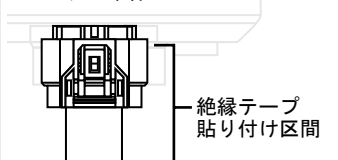
▲注意
ヘッドライトケースで、メーターハーネスを挟み込まない様に注意して下さい。断線や接触不良の原因になります。

■メーター本体への接続作業

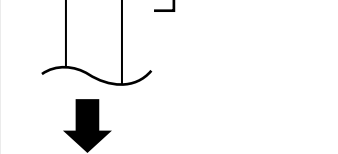
下写真、イラストを参考に①メーター本体と④サブハーネスを接続し、絶縁テープを巻きます。



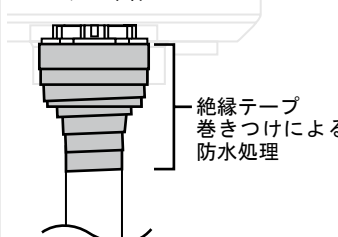
メーター本体



絶縁テープ
貼り付け区間



メーター本体



絶縁テープ
巻きつけによる
防水処理

▲注意
絶縁テープでテーピングが行われていない場合コード内に水が入り、メーターの故障に繋がる恐れがあります。

ヘッドライトケース、ヘッドライトユニットを逆手順で取り付けます。

▲注意
ヘッドライトケースで、メーターハーネスを挟み込まない様に注意して下さい。断線や接触不良の原因になります。

■外部スイッチの取り付け作業

メーターハーネスへ接続した外部スイッチをハンドルパイプにラバーstrips を巻き付け取り付けます。※外部スイッチは、防水仕様ですが、高圧洗浄機等で直接当てないで下さい。

モンキー 125 専用機能設定項目

車両専用機能設定を行う場合、“スーパーマルチ TFT メーターに付属のメーター本体説明書”を併用して下さい。
機能設定画面への移動変更方法や数値入力などの基本操作は、すべて“メーター本体説明書”に記載されています。
下記車両専用機能設定は、入力する数値や設定のみ記載しています。

下記番号はメーター本体説明書 機能設定項目番号になります。

■メーター本体説明書 機能設定番号 ①～⑪ ⑬～⑮の機能設定につきましては、メーター本体説明書をご覧ください。(機能設定方法を記載)			
① “Date & Clock” (日付・時計設定)	② “Unit” (速度・温度設定)	③ “Backlight” (バックライト設定)	④ “Overspeed” (速度警告設定)
⑤ “Shift Light” (回転警告設定)	⑥ “Temp Warning” (温度警告設定)	⑦ “Volt Warning” (電圧警告設定)	⑧ “Low Fuel Warning” (燃料警告設定)
⑨ “Oil Change (Trip 0)” (オイル交換時期警告設定)	⑩ “ABS Warning” (ABS 警告設定)	⑪ “Warning Light” (警告灯設定)	
⑬ “A/F Ratio” (空燃比計設定)	⑭ “Power Teat” (パワーテスト設定)	⑮ “ODO” (走行距離設定)	

※モンキー 125 はモデルにより、入力値が異なります。モデルを確認し入力して下さい。

12

モンキー 125 専用 ⑫ Speedometer (速度表示設定)

■速度信号長さとセンサーポイント設定

タイヤ周長を測定します。下記イラストの“タイヤ周長の測り方”を参考に計測します。測定後、下記計算式に数値を当てはめて計算を行います。これにより、速度信号長さの数値を求めます。そして、純正速度センサーの信号数を入力し、設定を完了します。

■純正速度センサーの設定方法

対象：モンキー 125 のミッションのギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両

下記計算式に必要な数値を当てはめて計算を行い、メーターに入力する数値を求めます。

必要となる数値は“ドライブスプロケット (丁数)” “ドリブンスプロケット (丁数)” “タイヤ周長” になります。

■ドライブスプロケット (丁数) を“数値 A” ドリブンスプロケット (丁数) を“数値 B” とします。

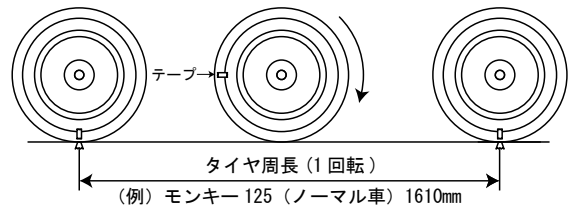
(例) モンキー 125 (JB02) (ノーマル車) ドライブスプロケット (数値 A) : 15T ドリブンスプロケット (数値 B) : 34T

タイヤ周長の測り方 エアーバルブやテープにて目印決め、それを始点とし、タイヤを 1 周回転させた距離を測定します。

※設定後、タイヤサイズを変更した場合は必ず設定を変更して下さい。

■タイヤ周長を“数値 C” とします。

数値 C
タイヤ周長 (mm)
(例) 1610mm



下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ (Tire Circumference)”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

数値 A ドライブスプロケット 例 (JB02) 15T (JB03) (JB05) 14T	÷	数値 B ドリブンスプロケット 例 (JB02) 34T (JB03) (JB05) 37T	×	数値 C タイヤ周長 (mm) 例 (JB02) 1610mm (JB03) (JB05) 1610mm	=	速度信号長さの数値 (mm) 例 (JB02) ≒ 710mm (JB03) (JB05) ≒ 609mm
---	---	---	---	---	---	--

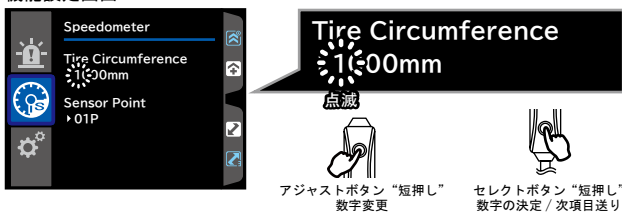
■純正速度センサーの信号数 (Sensor Point)

(例) モンキー 125 のミッションのギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両が対象となります。この場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのギアのカウンター側歯数を入力します。太枠内の数値が“信号数”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

信号数
P
信号を拾うポイント数
例 (JB02) 31
(JB03) (JB05) 27

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3 秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し” (下スクロール) を行い、“Speedometer”に合わせます。タイトルに“Speedometer”が表示されていることを確認し、セレクトボタン“3 秒長押し”で機能設定画面“Speedometer” (速度表示設定) に入ります。

機能設定画面

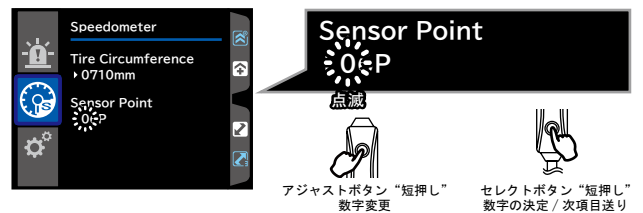


機能設定画面に入ると、項目 Tire Circumference に入り、1000 の位が点滅します。ここで計算で出した“速度信号長さ”の数値を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、次の位に移動します。最後に 1 の位を決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、次項目 Sensor Point (信号数入力) に移動します。※入力はまだ確定していません。

モンキー 125 (JB02) (JB03)
ノーマル車 (ノーマルタイヤ) 速度信号長さ : (JB02) 710mm (JB03) (JB05) 609mm

ノーマルタイヤ以外を装着している場合は、装着されているタイヤ外周を測り、上記計算式から値を割り出して、数値入力を行って下さい。

モンキー 125 (JB02)
SP 武川製スピードセンサーキットと 5 速クロスミッションキット装着車の場合
上記製品を装着されている場合、スプロケットを変更していてもノーマルドライブスプロケットの丁数、ノーマルドリブンスプロケット丁数、ノーマルタイヤ周長で計算式に当てはめて値を割り出し、メーターに数値を入力して下さい。
スプロケットやクロスミッション装着時の速度表示の設定は SP 武川製スピードセンサー側で行います。



Sensor Point (信号数入力画面) に入ると、10 の位が点滅します。ここで、純正速度センサーが読み込む“信号数” (信号を拾う純正ミッションのギアの歯数) を入力します。点滅している 10 の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次は 1 の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後に 1 の位を決定 (セレクトボタン“短押し”) すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意下さい。更に設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻して下さい。これで設定が確定されます。

車両がノーマルミッションの場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのギアの歯数を入力します。
モンキー 125 (JB02) ノーマルミッション (4 速) 車 数値入力 : 31P
モンキー 125 (JB03) (JB05) ノーマルミッション (5 速) 車 数値入力 : 27P

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3 秒長押し”を行い、メイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

⑬ Gear (ギア設定)

13

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Gear”に合わせます。タイトルに“Gear”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Gear”（ギア設定）に入ります。

※ギアポジションの設定に関して

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。

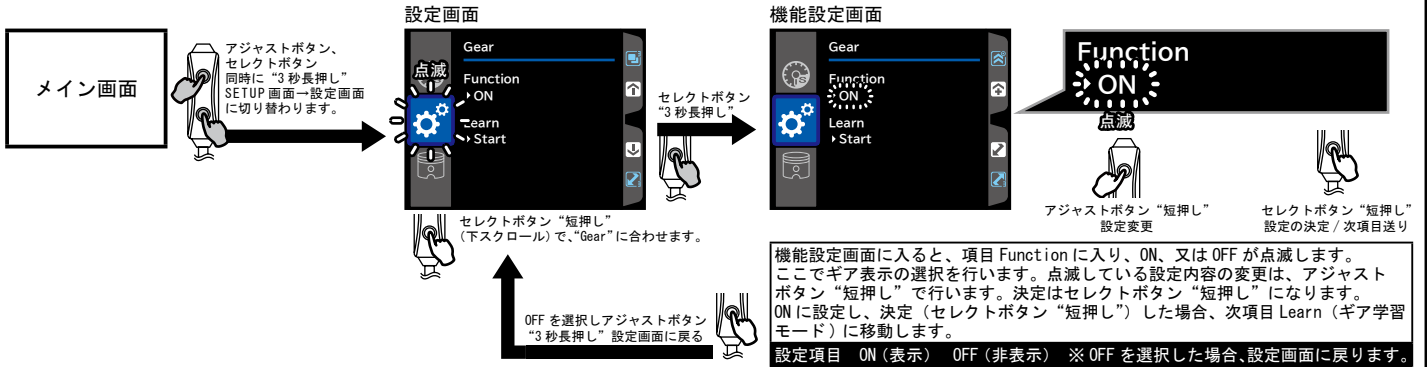
その為、“シャーンダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。

又、学習を行う際、必ず速度表示が設定されている状態で行う必要があります。

弊社は、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。

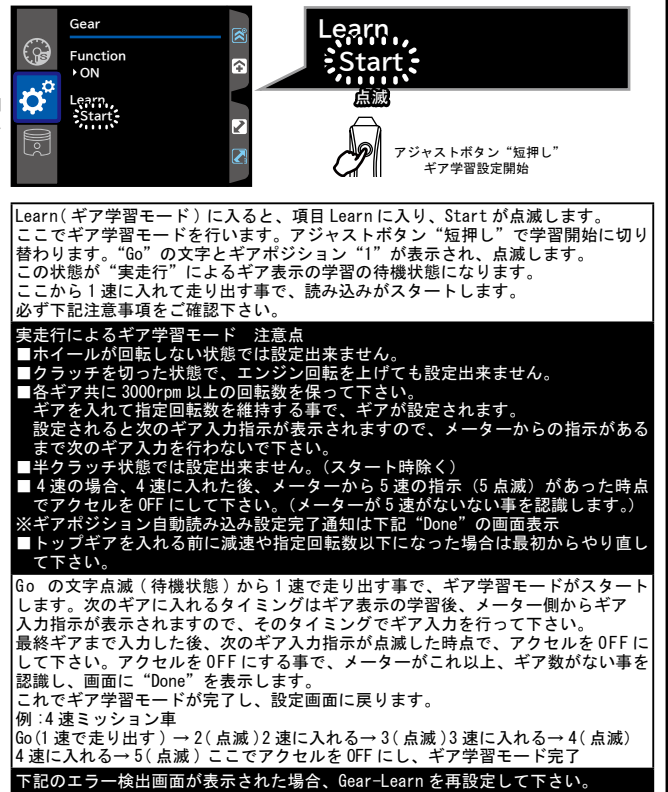
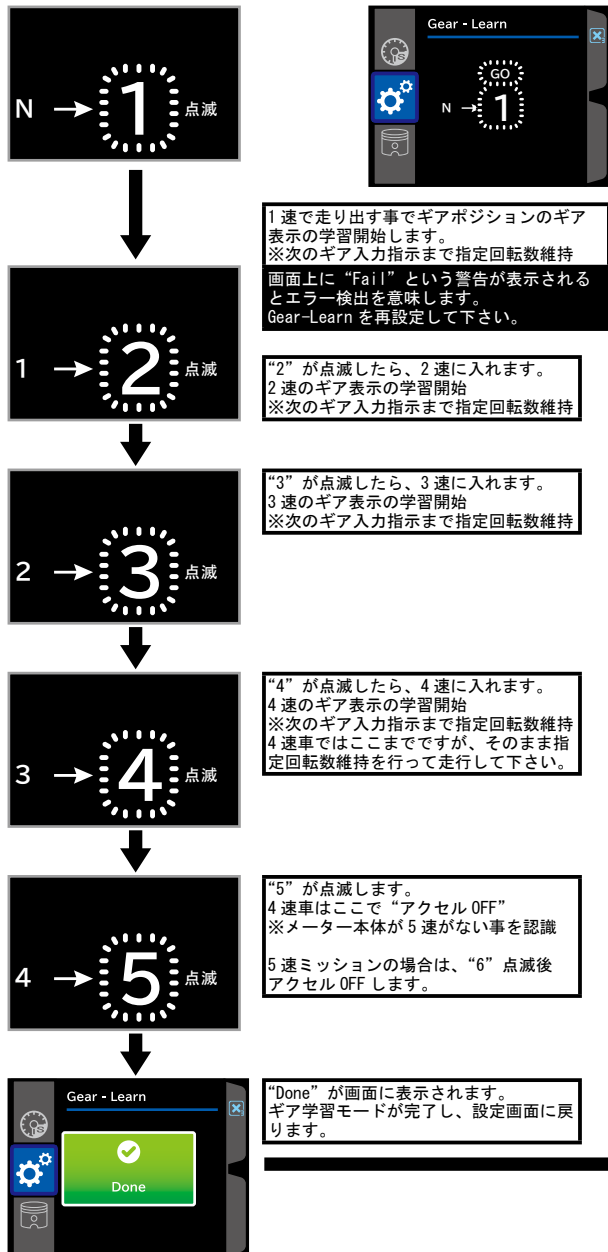
“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険の為、ギア表示の学習は行わないで下さい。

“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

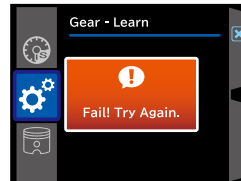


※ギア学習モードを設定する前に、必ずギアをニュートラルにしてください。

※ギアに入れるタイミングはメーター側から指示されます。ギア入力を指示される（ギア表示の学習後）まで指定回転数を維持して下さい。



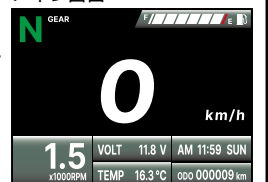
エラー検出画面表示



設定画面



メイン画面

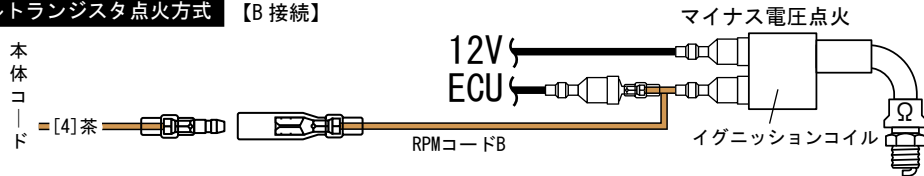


モンキー 125 専用 ⑭ RPM (タコメーター入力設定)

14

モンキー 125 の場合、【B 接続】 “フルトランジスタ点火方式” になります。下記接続方法で付属の RPM コード B を接続します。

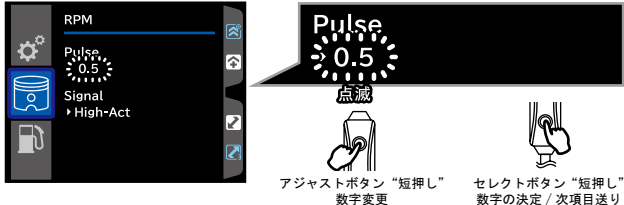
フルトランジスタ点火方式 【B 接続】



RPM コード B 接続後、下記 “RPM (タコメーター入力設定)” にある RPM 信号回数設定と RPM 信号種類設定を行います。

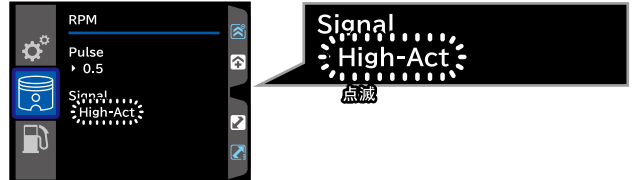
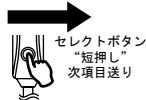
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に “3 秒長押し” を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン “短押し” (下スクロール) を行い、“RPM” に合わせます。タイトルに “RPM” が表示されていることを確認し、セレクトボタン “3 秒長押し” で機能設定画面 “RPM” (タコメーター入力設定) に入ります。

機能設定画面



下記 “RPM 信号入力” を参考に RPM コードの接続し、信号回数を確定した後、タコメーター入力設定にて信号回数を入力します。機能設定画面に入ると、項目 Pulse に入り、数字が点滅します。ここで RPM 信号回数を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。決定 (セレクトボタン “短押し”) すると、次項目 Signal に移動します。

モンキー 125 の RPM 信号回数: P0.5



機能設定画面に入ると、項目 Signal に入り、“Hi-Act”、又は “Lo-Act” が点滅します。ここで RPM 信号種類の選択を行います。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。決定 (セレクトボタン “短押し”) すると、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

モンキー 125 の RPM 信号種類: Hi-Act

※設定確定に関する注意点

数値入力・機能選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン “3 秒長押し” でメイン画面に戻って下さい。この作業が “設定確定” となり、メーターに設定が記憶されます。

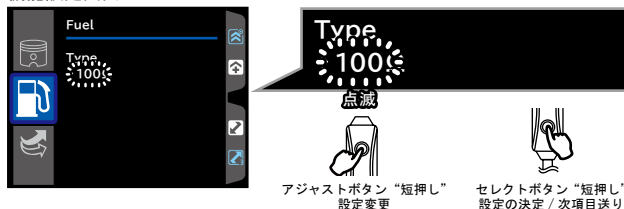
※上記作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

モンキー 125 専用 ⑮ Fuel (燃料設定)

15

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に “3 秒長押し” を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン “短押し” (下スクロール) を行い、“Fuel” に合わせます。タイトルに “Fuel” が表示されていることを確認し、セレクトボタン “3 秒長押し” で機能設定画面 “Fuel” (燃料設定) に入ります。

機能設定画面



機能設定画面に入ると、項目 Type に入り、プリセットされた設定 (抵抗値など) が点滅します。ここで抵抗値、又は燃料設定を選択します。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン “短押し” で行います。決定はセレクトボタン “短押し” になります。抵抗値、又は OFF を設定し、決定 (セレクトボタン “短押し”) した場合、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

モンキー 125 はプリセットされた抵抗値にある “390 Ω” を選択して下さい。

⚠ ご確認下さい。
※燃料表示に問題がある場合、再度この抵抗値をご確認下さい。

※設定確定に関する注意点

抵抗値、又は燃料設定選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン “3 秒長押し” でメイン画面に戻って下さい。この作業が “設定確定” となり、メーターに設定が記憶されます。

※上記作業を行わず、キー OFF を行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

メーターの作動不良等に関しては、まずメーター本体説明書のトラブルシューティングをご覧ください。

